

Sterling B2B Integrator



Trading Partner 管理

バージョン 5.2

Sterling B2B Integrator



Trading Partner 管理

バージョン 5.2

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、185 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

著作権

本書は、Sterling B2B Integrator のバージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 4、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Sterling B2B Integrator
Trading Partner Management
Version 5.2

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.7

© Copyright IBM Corporation 2000, 2012.

目次

第 1 部 取引パートナーの概要	1	第 10 部 B2B 送信サービス	41
第 2 部 取引パートナー・プロファイルを作成する前に	3	第 12 章 B2B 送信サービスの仕組み	43
第 3 部 基本取引パートナー・プロファイル	5	第 13 章 B2B 送信サービスの使用	45
第 4 部 拡張取引パートナー・プロファイル	7	第 11 部 B2B 応答サービス	47
第 1 章 ID レコード	9	第 14 章 B2B 応答サービスの仕組み	49
第 2 章 トランSPORT・レコード	11	第 15 章 B2B 応答サービスの使用	51
第 3 章 ドキュメント交換レコード	13	第 12 部 B2B 要求/応答サービス	53
第 4 章 デリバリー・チャンネル・レコード	15	第 16 章 B2B 要求/応答サービスの仕組み	55
第 5 章 パッケージ・レコード	17	第 17 章 B2B 要求/応答サービスの使用	57
第 6 章 プロファイル・レコード	19	第 13 部 ビジネス・プロセス仕様スキーマ (BPSS) の実装	59
第 5 部 取引パートナー・データのインポートとエクスポート	21	第 18 章 BPSS および CPA の実装	61
第 7 章 リソース・マネージャー	23	第 14 部 BPSS のチェックイン	63
第 8 章 基本インポート・ユーティリティ	25	第 19 章 XML バージョンの BPSS の使用	65
第 6 部 契約	27	第 20 章 BPSS 用テキスト・エディターの使用	67
第 9 章 契約を作成する前に	29	第 15 部 BPSS のインポートとエクスポート	69
第 7 部 コード・リスト	31	第 16 部 CPA のチェックイン	71
第 8 部 B2B サービスの概要	33	第 21 章 XML バージョンの CPA の使用	73
第 10 章 B2B サービスの例	35	第 22 章 テキスト・エディターの使用	75
第 9 部 B2B ルックアップ・サービス	37	第 17 部 BPSS 拡張機能の作成	77
第 11 章 B2B ルックアップ・サービスの仕組み	39	第 18 部 ebXML について	79
		第 23 章 ebXMLMessaging の編集	81

第 24 章 ebXMLInbound の編集	83
第 19 部 ebXML CPA ルックアップ	85
第 20 部 AFT を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成	89
第 21 部 FTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成	91
第 22 部 HTTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成	93
第 23 部 SMTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成	95
第 24 部 拡張取引パートナー・プロファイルの作成	97
第 25 部 ID レコードの作成	99
第 26 部 ドキュメント交換レコードの作成	101
第 27 部 トランスポート・レコードの作成	105
第 25 章 FTP 設定の指定	107
第 26 章 HTTP 設定の指定	113
第 27 章 SMTP 設定の指定	117
第 28 部 デリバリー・チャネル・レコードの作成	119
第 29 部 パッケージ・レコードの作成	123
第 30 部 取引パートナー・プロファイル・レコードの作成	125
第 31 部 基本または拡張取引パートナー・レコードの更新	127
第 32 部 取引パートナー・レコードの使用不可化	129

第 33 部 取引パートナー・レコードの削除	131
第 34 部 取引パートナー契約の作成	133
第 35 部 取引パートナー契約の更新	139
第 36 部 取引パートナー契約の削除	141
第 37 部 コード・リストの作成	143
第 38 部 コード・リストの更新	145
第 39 部 コード・リストのデフォルト・バージョンの変更	147
第 40 部 コード・リストの検索	149
第 41 部 コード・リストの使用可能化	151
第 42 部 コード・リストのコピー	153
第 43 部 コード・リスト・バージョンの作成	155
第 44 部 コード・リストの削除	157
第 45 部 コード・リスト・バージョンの削除	159
第 46 部 基本顧客インポート・ファイル・システム・アダプターの構成	161
第 47 部 エンベロープまたはコントロール番号、あるいはその両方を含むファイルとしての取引パートナー・データのインポート	163
第 48 部 基本インポート・ユーティリティによる取引パートナー・データのインポート	165
第 49 部 CSV ファイルとしての取引パートナー・データのインポート	169

第 50 部 コマンド・ラインの使用による取引パートナー・データのエクспорт 171

第 51 部 インポート・サービス GPM またはワークフロー・コンテキスト 173

第 52 部 基本インポート・ユーティリティー・プロセスの使用による取引パートナーのインポート 175

第 53 部 CSV ファイル・レイアウト 177

第 54 部 終了コード 179

第 55 部 HTTP プロファイルのテスト 181

第 56 部 付録 183

特記事項. 185

第 1 部 取引パートナーの概要

取引パートナーとは、他の組織と e-ビジネスを行う組織のことです。IBM® Sterling B2B Integrator は、取引パートナーとのビジネス・ドキュメントのセキュアな交換を自動化するために、取引パートナーに関する特定の情報を持つ必要があります。IBM Sterling B2B Integrator は、この情報を取引プロファイルと呼ばれる取引パートナー・プロファイルに保管します。

取引プロファイル:

- ビジネス・ドキュメントやトランザクションを交換するために作成されたビジネス・プロセスに取引パートナーをリンクします。
- それらのビジネス・プロセスにおける取引パートナーの役割をメッセージのプロデューサー、メッセージのコンシューマー、あるいはその両方として記述します。
- IBM Sterling B2B Integrator で送受信が許可されるドキュメントを特定します。

IBM Sterling B2B Integrator では、以下の複数の方法で取引パートナー・プロファイルを作成できます。

- 基本 – 開始するために必要な情報が比較的少ない簡略な入力方式を提供します。
- 拡張 – プロファイル、ID、ドキュメント交換、トランスポート方式、配信方式、およびパッケージ化に関して個別のレコードを提供します。
- AS2 – AS2 取引パートナーに固有のレコードを提供します。
- AS3 – AS3 取引パートナーに固有のレコードを提供します。

取引パートナーの使用

IBM Sterling B2B Integrator を使用して e-ビジネスを正常に実施するには、以下を行う必要があります。

- ユーザー組織の取引パートナー情報を入力します。
- 取引パートナー・プロファイルをセットアップするか、またはインポートします。
- ユーザーおよびユーザーの取引パートナーが使用するセキュリティー方式 (例えば、デジタル証明書) を決定します。
- 取引パートナーの契約を定義します。

第 2 部 取引パートナー・プロフィールを作成する前に

取引パートナー・プロフィールを作成する前に、必要な情報を収集して以下のアクションを完了してください。

注: 付加価値通信網 (VAN) を使用して EDI ドキュメントを交換している場合は、取引プロフィールのセットアップが不要な場合があります。 VAN を使用している場合、ドキュメント・エンベロープを作成するだけで、IBM Sterling B2B Integrator が EDI ドキュメントを交換するために必要な情報要件を十分に満たす可能性があります。

- ユーザーおよびユーザーの取引パートナーが、セキュアなデータ転送のためにデジタル証明書を使用するかどうかを判別します。使用する場合は、その証明書を作成し設定します。
- 取引パートナーの入力に、基本プロフィールまたは拡張プロフィールのどちらを使用するかを決定します。
- ユーザー自身およびユーザーの取引パートナーに関する以下の情報を収集します。
 - 名前
 - ID - 取引パートナーを識別する固有のストリング
 - 住所 - 従来型の郵便番号、市区町村、および番地
 - 送受信プロトコルおよび設定 - FTP、SMTP、HTTP、またはファイル転送
 - IP アドレスおよびポート番号
 - エンベロープ・プロパティ
 - パスワード
- 必要なサーバーおよびアダプターがインストールされ、構成されていることを確認します。

第 3 部 基本取引パートナー・プロファイル

一部のビジネスでは、取引パートナーのデータを迅速に入力するための簡略化された方式が必要とされます。

基本取引パートナー・プロファイル・オプションでは、以下のことが可能です。

- 取引パートナーに関する連絡先情報の指定
- 取引パートナーとドキュメント交換を行うための通信プロパティのセットアップ

基本プロファイルを作成すると、以下のレコードが自動的に作成され、デフォルトのレコード名が割り当てられます。

レコード・タイプ	レコードの機能
トランスポート	ドキュメント配信プロトコルを記述します。
ドキュメント交換	取引パートナー間のドキュメントおよびメッセージのプロパティを記述します。
デリバリー・チャンネル	ドキュメント交換レコードとトランスポート・レコードをリンクします。
パッケージ	ドキュメントおよびそのコンテンツの編成を記述します。
プロファイル	デリバリー・チャンネル・レコードおよびパッケージ・レコードをビジネス・プロセスにリンクします。

第 4 部 拡張取引パートナー・プロファイル

IBM Sterling B2B Integrator は、以下のそれぞれに関する個別のレコードで構成される拡張取引プロファイルのセットアップ・オプションを提供します。

- ID
- トランスポート
- ドキュメント交換
- デリバリー・チャンネル
- パッケージ
- プロファイル

第 1 章 ID レコード

すべての取引パートナーは、少なくとも 1 つのレコード (ID と呼ばれる) によって表されます。ID レコードは取引パートナーを記述するとともに、その取引パートナーが関係するビジネス・プロセスの実行時に参照される情報を含みます。取引パートナーは、ビジネスを行う複数の手段を表すために複数の ID を持つことができます。例えば、ある企業の本社の調達組織は、その製造資材調達組織とは根本的に異なる場合があります。このような場合には、組織ごとに別々の ID レコードが必要です。

基本 ID は正規の ID で、新規の ID を作成するための開始点として使用できます。基本 ID はそのプロパティを継承した ID へのリンクを保持します。基本 ID を変更する場合、関連するすべての ID (すなわち、基本 ID のプロパティを継承した ID) も変更されます。基本 ID を使用して ID レコードを作成する場合、ID 名、説明、およびその他固有のパラメーター (固有の ID 番号など) を除いて、新規 ID のプロパティはすべて基本 ID と同じになります。

注: 基本 ID を使用して多数の ID の作成を計画している場合は、基本 ID を実動で使用しないでください。基本 ID に関連している ID を記録するようにしてください。

トランスポート、ドキュメント交換、デリバリー・チャンネル、パッケージ、プロフィール、および必要に応じて契約を作成するには、その前に ID を作成する必要があります。これらの各コンポーネントは、ID を参照します。

第 2 章 トランスポート・レコード

トランスポート・レコードは、ドキュメント配信プロトコルを記述します。トランスポート・レコードは、HTTP、FTP、または SMTP などのプロトコルを特定します。さらに、プロトコルの使用についての詳細 (セキュアなデータ交換のために SSL で構成された HTTP など) を提供します。各 ID は複数のトランスポート・レコードを持つことができます。ID が複数のトランスポート・レコードを持つ場合、対応するプロファイル・レコードを作成する必要があります。

第 3 章 ドキュメント交換レコード

ドキュメント交換レコードは、取引パートナー間で受け渡しされるドキュメントやメッセージのプロパティを記述します。これらのプロパティには、取引パートナーによって選択されたメッセージング・サービスやメッセージ・エンベロープが含まれます。例えば、デジタル・エンベロープ・プロパティには、SMIME プロトコルを使用する際に必要とされる取引パートナーのデジタル署名および暗号化が含まれます。取引パートナー間で受け渡しされるドキュメントやメッセージのプロパティを記述するには、ドキュメント交換レコードを作成する必要があります。

第 4 章 デリバリー・チャンネル・レコード

デリバリー・チャンネル・レコードは、ドキュメント交換レコードとトランスポート・レコードをリンクします。これら 2 つのレコードを組み合わせることで、取引パートナーが予期するドキュメント受信方法の完全な記述を提供します。デリバリー・チャンネル・レコードにより、トランスポート・プロトコルごとにドキュメント交換情報を再入力する必要がなくなります。

第 5 章 パッケージ・レコード

パッケージ・レコードは、ドキュメントおよびそのコンテンツ (メッセージを含む) の以下の編成を記述します。

- 識別メタデータを含むヘッダーまたはエンベロープ
- ビジネス・コンテンツを含む本体またはペイロード

パッケージ・レコードは、取引パートナー間で共有できます。パッケージ・レコードはさらに、プロトコル固有のセキュリティーについての詳細のほか、MIME コンテンツ・タイプや XML 名前空間のようなエンベロープ・フィールドを提供します。

第 6 章 プロファイル・レコード

プロファイル・レコードは、ドキュメント交換レコードの一種で、取引パートナーのデリバリー・チャンネル・レコードおよびパッケージ・レコードをビジネス・プロセスにリンクします。プロファイルは、取引パートナーのデリバリー・チャンネル・レコードおよびパッケージ・レコードをビジネス・プロセスにリンクします。

第 5 部 取引パートナー・データのインポートとエクスポート

IBM Sterling B2B Integrator は、以下に役立ついくつかのユーティリティを提供します。

- 取引パートナー・データの変換およびインポート
- ドキュメント・エンベロープまたはコントロール番号 (あるいはその両方) を含むファイルのコマンド・ラインからのインポート
- テスト・システムと実動システムの同期を維持できるように、コントロール番号なしでのドキュメント・エンベロープのインポート。ドキュメント・エンベロープはインポートされますが、実動システム (エンベロープのインポート先システム) からの順次コントロール番号が使用されます。
- 取引パートナー・データのエクスポート

IBM Sterling B2B Integrator は、2 種類のコントロール番号 (ローカルおよびグローバル) を使用します。ローカルでは、コントロール番号はパートナーのエンベロープに含まれます。グローバルの場合は、エンベロープ外部のコントロール番号 (多数のエンベロープが参照できるコントロール番号) を参照します。

以下のいずれかを使用して、取引パートナー・データを IBM Sterling B2B Integrator にインポートできます。

- リソース・マネージャー (「管理」メニュー > 「展開」 > 「リソース・マネージャー」)
- 基本インポート・ユーティリティ (コマンド・ライン)

コマンド・ライン・スクリプトを使用して、取引パートナー・データをエクスポートできます。この方法は、出力ファイルをメモリーに保存せず、データをファイル・システムに直接エクスポートするため、大量のデータをエクスポートする場合にお勧めです。

第 7 章 リソース・マネージャー

インポート/エクスポート機能は、取引パートナー・データを含め、多数の異なるリソース・タイプをサポートします。リソース・マネージャーを使用して**グローバル・コントロール番号**を使用するエンベロープをエクスポートする場合、エクスポート・ファイルはグローバル・コントロール番号を使用するため、インポート・システム上でグローバル・コントロール番号を構成しておく必要があります。

エンベロープまたはコントロール番号 (あるいはその両方) を含むファイルをインポートする場合、インポート・オプションは XML ファイルまたはインストール可能なバンドルを IBM Sterling B2B Integrator のリソース・フォーマットに変換します。

使用したエクスポートのタイプ (標準または拡張、デフォルトまたはすべてのバージョン) に応じて、インポート・オプションは以下の機能を実行します。

- 新規のバージョン管理されているエンベロープの作成およびチェックイン (インポートの時刻/日付を割り当てます)
- 既存のバージョン管理されていないエンベロープの更新または保持
- 既存のチェックイン済みエンベロープの保持または追加

注: 既存レコードの損失や破損を防ぐため、実行するすべてのインポートのバックアップ・ファイルを保持してダウンロードしてください。

標準インポート:

- 既存のバージョン管理されているリソースへの追加
- インポートされたレコードに従ってデフォルトを設定

リソースのインポートに関する重要な一般情報 (一部):

- インポートされたリソースがハードコーディングされたコンピューター固有の情報を含む場合は、手動で更新する必要があります。例えば、スクリプト内のシステム・パスは、リソースを新規ロケーションにインポートした後で新しいパスを使用するように手動で変更する必要があります。
- インポート時、IBM Sterling B2B Integrator はインポート前の状態のレコードを含むバックアップ・ファイルを作成します。リソースをインポートした後、バックアップ・ファイルをダウンロードして保持できます。バックアップ・ファイルにはデフォルトで backup.xml という名前が付けられますが、既存のバックアップ・ファイルを上書きしないように名前を変更することができます。

インポート・プロセスは、何も存在しない場合は新規レコードを作成します。既に同じエンベロープが含まれている環境にエンベロープをインポートする場合は、既存のエンベロープを更新するか、または既存のエンベロープを保持するかを選択することができます。

第 8 章 基本インポート・ユーティリティー

基本インポート・ユーティリティーを使用して取引パートナー・データを IBM Sterling B2B Integrator にインポートすることによって、迅速かつ容易に新規の取引パートナー ID を作成できます。

このツールを使用すると、取引パートナー ID 情報を含む CSV ファイルをコマンド・ラインからインポートできます。ユーティリティーは CSV ファイルを XML に変換してインポートし、インポートが完了するかまたはタイムアウトが発生すると (先に発生した方の) 状況を提供します。

基本インポート・ユーティリティーで使用する適切なアダプター構成を作成するために、基本顧客インポート・ファイル・システム・アダプター (BasicCustomerImport_FSA) を構成する必要があります。アダプターがファイル・コレクション・フォルダーを検査 (XML に変換して IBM Sterling B2B Integrator にインポートする CSV ファイルがないかを検査) する頻度およびタイミングをセットアップするために、IBM Sterling B2B Integrator でフィールド設定を指定する必要があります。CSV ファイルをインポートする前に、CSV ファイルと IBM Sterling B2B Integrator の取引パートナー名を比較して、必要な情報が上書きされないことを確認するようにしてください。

注: テキスト・エディターを使用して、`install_dir/tp_import` ディレクトリーにある `BasicImport.rpt` ファイルを表示できます。このファイルは、CSV から XML への変換および IBM Sterling B2B Integrator への CSV ファイルのインポート状況をレポートします。

この機能の一部として、IBM Sterling B2B Integrator はさらに以下のものを提供します。

- `basicimport.sh` ユーティリティー (UNIX で使用)。`install_dir/tp_import` ディレクトリーにあります。
- `basicimport.cmd` ユーティリティー (Windows で使用)。`install_dir/tp_import` ディレクトリーにあります。
- マップ (BasicCustomerImport.map)

注: BasicCustomerImport.map は変更可能です。ただし、スキーマから生成されたマップの右側 (出力側) を変更しないようにくれぐれもご注意ください。必須エレメントを条件付きに変更し、データのインポートを試行した際にデータが存在しなかった場合、インポートは失敗します。

- 変換オブジェクト (BasicCustomerImport.txo)。IBM Sterling B2B Integrator に自動的にチェックインされます。
- ファイル・システム・アダプター (BasicCustomerImport_FSA) のインスタンス
- 定義済みビジネス・プロセス (BasicCustomerImport.bp)。このビジネス・プロセスは、IBM Sterling B2B Integrator が基本インポート・ユーティリティー (BasicCustomerImport.bp) を実装するために使用します。この定義済みビジネス・プロセスは、基本インポート・ユーティリティーの処理中に基本顧客インポート・ファイル・システム・アダプターによって開始されます。変更は不要です。

- CSV から XML への変換および IBM Sterling B2B Integrator への CSV ファイルのインポート状況のレポート (BasicImportReport.rpt、XML フォーマット)。基本インポート・ユーティリティを実行すると、*install_dir/tp_import* ディレクトリに生成されます。
- 変換された CSV ファイルを包含する XML ファイル (basicimport.XML)。基本インポート・ユーティリティを実行すると、*install_dir/tp_import* ディレクトリに生成されます。
- フォルダー (*install_dir/tp_import*)。基本インポート・ユーティリティを使用するために必要なファイルが置かれます。
- サブフォルダー (*install_dir/tp_import/basic_customer_import_collect*)。ここに CSV ファイルを投入すると、基本顧客インポート・ファイル・システム・アダプターによって自動的にピックアップされます。

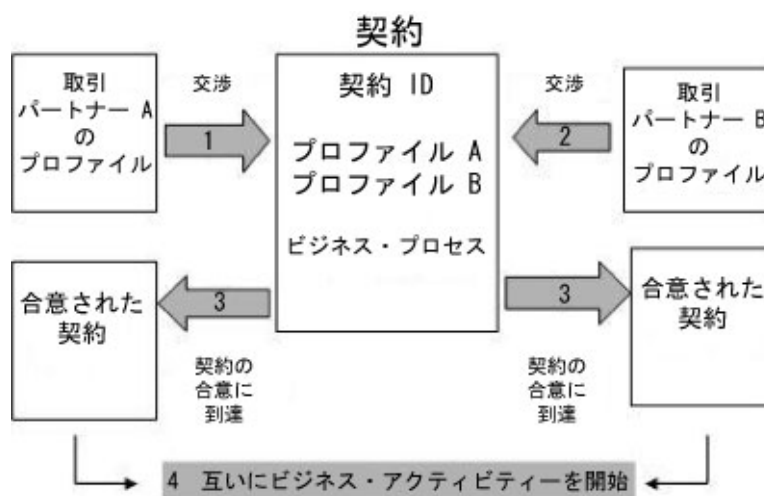
以下の表は、IBM Sterling B2B Integrator が基本インポート・ユーティリティをどのようにサポートするかを説明しています。

機能	機能拡張	基本インポート・ユーティリティを実装するために必要なアクション
サービス	<ul style="list-style-type: none"> • 新規の基本顧客インポート・サービス・ファイル・システム・アダプターの追加 (BasicCustomerImport_FSA)。 	BasicCustomerImport_FSA を構成します。
定義済みビジネス・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> • 定義済みの基本顧客インポート・ビジネス・プロセス (BasicCustomerImport.bp) の追加。 	なし。
マップ・エディター	<ul style="list-style-type: none"> • 新規のマップ (BasicCustomerImport.map) および変換オブジェクト (BasicCustomerImport.txo)。 	基本顧客インポート・マップを CSV ファイルのレイアウトに合わせて変更するか、または CSV ファイルのレイアウトに必要なファイル・レイアウトに確実に合わせます。
基本インポート・ユーティリティ	<ul style="list-style-type: none"> • CSV ファイルのインポートを可能にする新規ユーティリティ (UNIX 用の basicimport.sh または Windows 用の basicimport.cmd) • XML フォーマットの新規レポート (BasicImport.rpt)。CSV から XML への変換および IBM Sterling B2B Integrator への CSV ファイルのインポート状況をレポートします。 	<ul style="list-style-type: none"> • 基本インポート・ユーティリティ (basicimport.sh または basicimport.cmd) を使用して、CSV ファイルを IBM Sterling B2B Integrator にインポートします。 • テキスト・エディターを使用して、BasicImport.rpt ファイル (<i>install_dir/tp_import</i> ディレクトリ内) を表示します。

第 6 部 契約

契約とは、取引パートナー間の合意です。契約は、ビジネス・トランザクションの実施方法を詳述します。契約は、特定の顧客に対して他の顧客には適用しないカスタマイズ・プロセスを必要とする場合や、顧客によって異なる特別な取り決めを行う場合に有用です。単一の取引パートナーを複数の契約に関連付けることができます。

以下の図は、2 者の取引パートナー間の標準的な契約交渉プロセスを示しています。



管理コンソール上で「拡張取引パートナー (Advanced Trading Partner)」オプションを使用して取引パートナー・プロファイルを作成する場合は、手動で契約を追加する必要があります。

第 9 章 契約を作成する前に

以下は、契約を作成する前に検討すべき項目の一部です。

- 取引に関与する取引パートナーまたは ID ごとに取引プロファイルを作成します。
- ビジネス要件を特定し、必要に応じて要件に基づくビジネス・プロセスを作成して契約に関連付けます。
- 契約にコード・リストを関連付けるかどうかを決定します。
- 取引パートナーが RosettaNet を使用する場合、契約には特定の構成が必要です。RosettaNet 契約の作成については、ドキュメント・ライブラリーを参照してください。
- 取引パートナーが ST または UNH のインバウンド・エンベロープを使用する場合、変換時にプロセス・データのルックアップを実行する標準ルールを作成できません。標準ルールでプロセス・データのルックアップを実行するには、ST または UNH インバウンド・エンベロープで契約を指定し、エンベロープ解除プロセスの後に別途変換を実行します。

第 7 部 コード・リスト

IBM Sterling B2B Integrator は、2 者以上の取引パートナー間のトランザクションにおいて項目を識別するために、コード・リストのコード・ペアを使用します。取引パートナーのコード・リストは、送信側コードおよび受信側コードを含む 1 つまたは多数のコード値のペアで構成されます。各コード・ペアは、そのペアに関する 1 つの説明と最大 4 つの追加コードを備えています。コード・リストは動的で、データベースに保管されます。

コード・リストの作成、編集、コピー、バージョン作成、および使用可能/使用不可の設定は、「取引パートナー」メニューから行えます。マップ・エディターで「選択」標準ルールを使用する場合、コード・リストを使用してフィールド内容を変更することができます。IBM Sterling B2B Integrator は、マップの処理内容に応じてマップが使用するべき適切なコード・リストを判別するために、コード・リスト名、送信側 ID、受信側 ID、および送信側コードか受信側コードを使用します。

注: 極めて大容量の (100,000 エントリーを超える) コード・リストを表示しようとすると、コード・リストを表示できずにメモリー不足エラーを表示する場合があります。IBM Sterling B2B Integrator に割り振られるメモリー量を増やす方法については、「パフォーマンスおよびチューニング (*Performance and Tuning*)」を参照してください。

同じ送信側および受信側用のコード・リストにいくつかの異なるコード・ペア・セットがある場合、コード・ペア・セットごとに新しいバージョンのコード・リストを作成することができます。また、1 つのコード・リスト内に含まれる個別のコード・ペアの複数のバージョンを作成することもできます。

第 8 部 B2B サービスの概要

B2B サービスは、複雑な判断を容易化し、ビジネス・サブプロセスを実行して、適切なトランスポート・プロトコルを介して取引パートナーにドキュメントを送信します。B2B サービスは、IBM Sterling B2B Integrator の一部として、事前定義されてインストールされています。したがって、これらのサービスを使用するためにサービスを構成する必要はありません。

B2B サービスは、トランスポート・プロトコルやアダプター、取引プロファイル、および契約に依存しない動的なサービスで、取引パートナー間のデータ交換方法を決定します。ビジネス・プロセスでこれらのサービスを使用することによって、取引パートナー間のデータ交換を定義するために必要な詳細の多くを構成する必要がなくなります。

取引パートナーと通信するには、取引パートナー・レコードを定義して、すべてのビジネス・プロセスで以下の B2B サービスの少なくとも 1 つを使用する必要があります (EDIINT メッセージ・サービスを使用している場合を除く)。

- B2B ルックアップ・システム・サービス
- B2B 要求/応答システム・サービス
- B2B 応答システム・サービス
- B2B 送信システム・サービス

第 10 章 B2B サービスの例

ユーザーは、在庫レベルを定期的に更新する複数のサプライヤー、およびこれらのサプライヤーから商品を購入する単一の顧客のための販売店です。在庫レベルが更新されると、ユーザーはサプライヤーから通知を受け取ります。通知を受け取ったユーザーは、サプライヤーに新規の在庫リストを要求し、既存の在庫レポートにマージして顧客に送信する必要があります。

契約において、サプライヤーをプロデューサー、ユーザーをコンシューマーとした場合、この例のビジネス・プロセスのステップは以下のようになります。

1. 在庫変更通知を在庫変更レポートの要求に変換します。

- B2B 要求/応答サービスを使用して、通知を送信した取引パートナーからの在庫レベル・レポートを要求します。
- さまざまなサービスを使用して、顧客向けの完全なレポートを作成します。

1. B2B 応答サービスを使用して、顧客にレポートを送信します。

このビジネス・プロセス例では、示されたタスクを以下の役割が実行します。

役割	タスク
ビジネス・アナリスト	取引パートナーからの在庫リストを要求するビジネス・プロセスを定義し、その在庫リストを適切なフォーマットにして既存の在庫レポートにマージし、マージ後の在庫を顧客に送信します。
システム管理者	ビジネス・プロセスを正常に開始できるように、通信プロトコル・アダプターを構成します。
取引パートナー管理者	データのプロデューサーおよびコンシューマーに関するすべての取引プロファイル情報を入力します。この情報には、プロデューサーと IBM Sterling B2B Integrator の間の契約も含まれます。

第 9 部 B2B ルックアップ・サービス

B2B ルックアップ・サービスは、他のサービスおよびビジネス・プロセスが取引パートナーの契約レコードやプロファイル情報を取得するために使用するシステム・サービスです。B2B ルックアップ・サービスは、B2B 送信サービス、B2B 応答サービス、または B2B 要求/応答サービス、あるいは B2B_LOOKUP システム・ビジネス・プロセスが使用される際に自動的に実行されます。そのため、ご使用のビジネス・プロセスの多くは B2B ルックアップ・サービスを組み込む必要はありません。

注: B2B ルックアップ・サービスを実行する前に、取引プロファイルおよび契約を構成する必要があります。

第 11 章 B2B ルックアップ・サービスの仕組み

B2B ルックアップ・サービスはビジネス・プロセス内部に定義された以下の 2 つのパラメーターを使用します。

- B2B 契約 ID
- B2B メッセージ・モード

B2B ルックアップ・サービスは以下のように機能します。

1. 契約に関連付けられたプロファイルとメッセージ・モードを取得します。 B2B メッセージ・モードに応じて、B2B ルックアップ・サービスは以下のいずれかのアクションを実行します。
 - B2B メッセージ・モードが応答の場合、サービスは契約のプロデュース (送信) プロファイルを使用します。
 - B2B メッセージ・モードが送信の場合、サービスは契約のコンシューム (受信) プロファイルを使用します。
 - B2B メッセージ・モードが要求/応答の場合、サービスは契約のプロデュース (送信) プロファイルを使用します。
2. 契約に関連付けられたトランスポート・レコードで参照されるビジネス・プロセスを取得します。

第 10 部 B2B 送信サービス

B2B 送信サービスは、契約の取引プロファイル情報を使用してコンシューム (受信) 取引パートナーにメッセージを送信します。

注: B2B 送信サービスを使用する前に、取引プロファイルおよび契約を構成する必要があります。

第 12 章 B2B 送信サービスの仕組み

ビジネス・プロセスに B2B 送信サービスが組み込まれている場合、以下のように機能します。

1. サービスはビジネス・プロセスの一部として実行されます。
2. このサービスは B2B ルックアップ・サービスを開始します。
3. B2B ルックアップ・サービスは以下を見つけます。
 - 契約のコンシューム・プロファイル
 - コンシューム・プロファイルのトランスポート・プロトコル
 - プロファイルのトランスポート・プロトコルに対する適切なトランスポート・ビジネス・プロセス、またはコンシューム・プロファイルで送信メッセージ・モードに関連付けられているビジネス・プロセス (指定されている場合)
4. B2B ルックアップ・サービスは、コンシューム・プロファイルで送信メッセージ・モードに指定されたビジネス・プロセスを実行します。プロファイルに指定がない場合は、デフォルトのビジネス・プロセスを実行します。
5. B2B ルックアップ・サービスは、適切な通信アダプターを開始します。
6. 通信アダプターは、コンシューム・プロファイルのトランスポート・サーバーにメッセージを送信します。

第 13 章 B2B 送信サービスの使用

このタスクについて

B2B 送信サービスを使用するには、以下の手順を実行します。

手順

1. ビジネス・プロセスで、B2B 送信サービスの前に割り当てサービスを置き、契約 ID を b2b-contract-id に、または契約名を b2b-contract-name に割り当てるよう構成します。
2. B2B 送信サービスをビジネス・プロセスに組み込みます。

タスクの結果

B2B 送信サービスを使用するビジネス・プロセスを作成した後、同じビジネス・プロセスを任意の数の契約に関連付けて、契約のコンシューム・プロファイルにメッセージを送信することができます。

B2B ルックアップ・サービスは、取引パートナーのトランスポート情報をルックアップし、指定されたトランスポート・プロトコル (HTTP、SMTP、または FTP など) を使用してメッセージを送信します。

第 11 部 B2B 応答サービス

B2B 応答サービスは、契約の取引プロファイル情報を使用してプロデュース (送信) 取引パートナーからのメッセージに応答します。そのため、B2B 応答サービスが組み込まれたビジネス・プロセスを作成して実行すると、ビジネス・プロセスは、取引パートナーから受信したメッセージに対してメッセージを送信して応答します。

注: このサービスを使用する前に、取引プロファイルおよび契約を構成する必要があります。

第 14 章 B2B 応答サービスの仕組み

以下は、B2B 応答サービスがどのように機能するかを説明しています。

1. サービスはビジネス・プロセスの一部として実行されます。
2. B2B 応答サービスは B2B ルックアップ・サービスを開始します。
3. B2B ルックアップ・サービスは以下を見つけます。
 - 契約のプロデュース・プロファイル
 - プロデュース・プロファイルのトランスポート・プロトコル
 - プロファイルのトランスポート・プロトコルに対する適切なトランスポート・ビジネス・プロセス、またはプロデュース・プロファイルで応答メッセージ・モードに関連付けられているビジネス・プロセス (指定されている場合)
4. B2B ルックアップ・サービスは、プロデュース・プロファイルで応答メッセージ・モードに指定されたビジネス・プロセスを実行します。プロファイルに指定がない場合は、デフォルトのビジネス・プロセスを実行します。
5. B2B ルックアップ・サービスは、適切な通信アダプターを開始します。
6. 通信アダプターは、取引パートナーのプロデュース・トランスポート・サーバーにメッセージを送信します。

第 15 章 B2B 応答サービスの使用

このタスクについて

B2B 応答サービスを使用するには、以下の手順を実行します。

手順

1. ビジネス・プロセスで、B2B 要求/応答サービス の前に割り当てサービスを置き、契約 ID を `b2b-contract-id` に、または契約名を `b2b-contract-name` に割り当てるよう構成します。
2. B2B 応答サービスをビジネス・プロセスに組み込みます。

第 12 部 B2B 要求/応答サービス

B2B 要求/応答サービスは、契約のプロデュース (送信) プロファイルを使用してプロデュース取引パートナーに要求を送信し、応答を取得します。

第 16 章 B2B 要求/応答サービスの仕組み

ビジネス・プロセスに B2B 要求/応答サービスが組み込まれている場合、以下のよう
に機能します。

1. サービスはビジネス・プロセスの一部として実行されます。
2. B2B 要求/応答サービスは B2B ルックアップ・サービスを開始します。
3. B2B ルックアップ・サービスは以下を見つけます。
 - 契約のプロデュース・プロファイル
 - プロデュース・プロファイルのトランスポート・プロトコル
 - プロファイルのトランスポート・プロトコルに対する適切なトランスポート・
ビジネス・プロセス、またはプロデュース・プロファイルで要求/応答メッセ
ージ・モードに関連付けられているビジネス・プロセス (指定されている場合)
4. B2B ルックアップ・サービスは、プロデュース・プロファイルで要求/応答メッ
セージ・モードに指定されたビジネス・プロセスを実行します。プロファイルに
指定がない場合は、デフォルトのビジネス・プロセスを実行します。
5. B2B ルックアップ・サービスは、適切な通信アダプターを開始します。
6. 通信アダプターは、プロデュース・プロファイルのトランスポート・サーバーに
メッセージを送信します。

第 17 章 B2B 要求/応答サービスの使用

このタスクについて

B2B 要求/応答サービスを使用するには、以下の手順を実行します。

手順

1. ビジネス・プロセスで、B2B 応答サービスの前に割り当てサービスを置き、契約 ID を `b2b-contract-id` に、または契約名を `b2b-contract-name` に割り当てるよう構成します。
2. B2B 要求/応答サービスをビジネス・プロセスに組み込みます。

第 13 部 ビジネス・プロセス仕様スキーマ (BPSS) の実装

IBM Sterling B2B Integrator では ebXML ビジネス・プロセス仕様スキーマ (BPSS) を実装できます。BPSS は、ビジネス・プロセスを定義するための標準構造を提供します。BPSS にはビジネス・プロセス内部のビジネス・アクティビティの仕様が含まれているため、IBM Sterling B2B Integrator は取引パートナー間のビジネス契約に従ってアクティビティをアセンブルできます。

BPSS は、取引パートナー情報と ebXML コラボレーション・プロトコル合意 (CPA) 仕様を使用して、取引パートナー、ビジネス・プロセス、および IBM Sterling B2B Integrator の間の関係を示します。取引パートナー情報および CPA は BPSS を参照し、取引パートナーとデータを交換するビジネス・プロセスを実行するための構成ファイルとして機能します。

第 18 章 BPSS および CPA の実装

このタスクについて

BPSS を実装するには、以下のステップを順番どおりに実行する必要があります。

手順

1. IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターまたは任意のテキスト・エディターを使用して、XML バージョンの BPSS を作成します。
2. BPSS (.xml ファイル) をチェックインします。
3. IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターまたは任意のテキスト・エディターを使用して、XML バージョンの CPA を作成します。
4. CPA (.xml ファイル) をチェックインします。

第 14 部 BPSS のチェックイン

BPSS をチェックインするには、以下の 2 つの方法があります。

- 以前に作成した XML バージョン (.xml ファイル) の BPSS をチェックインすることができます。
- IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターを使用して、XML を入力またはコピーして XML バージョンの BPSS を作成し、その .xml ファイルをチェックインすることができます。

第 19 章 XML バージョンの BPSS の使用

このタスクについて

以前に作成した XML バージョン (.xml ファイル) の BPSS をチェックインするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「EBXML」>「BPSS」を選択します。
2. 「新規 BPSS スキーマのチェックイン」の横にある「実行」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、BPSS プロセス仕様エレメントにある名前を入力します。
4. 「新規 BPSS スキーマを定義するための入力モードの選択」の「BPSS スキーマのチェックイン」を選択して、「次へ」をクリックします。
5. 「BPSS スキーマ・ファイル名 (.xml) (BPSS schema filename (.xml))」フィールドに、BPSS のファイル名を入力するか、または「参照」をクリックして選択します。
6. 「チェックイン・コメント」フィールドに、BPSS の識別に役立つコメントを入力します。
7. 「エンコード・タイプ」フィールドで、BPSS の文字エンコード・タイプを選択して「次へ」をクリックします。
8. 「ビジネス・プロセスで使用可能」が選択されていることを確認して、「終了」をクリックし、BPSS をチェックインします。

第 20 章 BPSS 用テキスト・エディターの使用

このタスクについて

IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターを使用して XML バージョンの BPSS を作成し、チェックインするには以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「EBXML」>「BPSS」を選択します。
2. 「新規 BPSS スキーマのチェックイン」の横にある「実行」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、BPSS プロセス仕様エレメントにある名前を入力します。
4. 「新規 BPSS スキーマを定義するための入力モードの選択」の「BPSS スキーマ・テキスト・エディター」を選択して、「次へ」をクリックします。
5. 「説明」フィールドに、BPSS の識別に役立つ説明を入力します。
6. 「BPSS スキーマ」フィールドに、BPSS を構成する XML コードを入力するか、またはコピーして貼り付けて、「次へ」をクリックします。
7. 「ビジネス・プロセスで使用可能」が選択されていることを確認して、「終了」をクリックし、BPSS をチェックインします。

第 15 部 BPSS のインポートとエクスポート

このタスクについて

BPSS をインポートまたはエクスポートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「リソース・マネージャー」>「インポート/エクスポート」を選択します。
2. BPSS をインポートするか、またはエクスポートするかに応じて、適切な見出しの横にある「実行」をクリックします。
3. ファイル名を入力するか、または「参照」をクリックしてインポートあるいはエクスポートするファイルを見つけてから、「次へ」をクリックします。
4. これでインポート/エクスポート・プロセスは完了です。

第 16 部 CPA のチェックイン

BPSS をチェックインした後で、CPA をチェックインできます。CPA のチェックイン・プロセスは、BPSS のチェックイン・プロセスと同様です。

CPA をチェックインするには、以下の 2 つの方法があります。

- 以前に作成した XML バージョン (.xml ファイル) の CPA を使用して、そのファイルをチェックインすることができます。
- IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターを使用して、XML を入力またはコピーして XML バージョンの CPA を作成し、その .xml ファイルをチェックインすることができます。

第 21 章 XML バージョンの CPA の使用

このタスクについて

以前に作成した XML バージョン (.xml ファイル) の CPA をチェックインするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「EBXML」>「CPA」を選択します。
2. 「新規 CPA 仕様のチェックイン」の横にある「実行」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、CPA の CollaborationProtocolAgreement エlement 下の cpaid 属性として定義される値を入力します。
4. 「新規 CPA 仕様を定義するための入力モードの選択」の「CPA 仕様のチェックイン」を選択して、「次へ」をクリックします。
5. 「CPA 仕様ファイル名 (.xml)」フィールドに、CPA のファイル名を入力するか、または「参照」をクリックして選択します。
6. 「チェックイン・コメント」フィールドに、CPA の識別に役立つコメントを入力します。
7. 「エンコード・タイプ」のリストから、CPA の文字エンコード・タイプを選択して「次へ」をクリックします。
8. 「ビジネス・プロセスで使用可能」が選択されていることを確認して、「終了」をクリックし、CPA をチェックインします。

第 22 章 テキスト・エディターの使用

このタスクについて

IBM Sterling B2B Integrator のテキスト・エディターを使用して、XML を入力またはコピーして XML バージョンの CPA を作成し、その .xml ファイルをチェックインするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「EBXML」>「CPA」を選択します。
2. 「新規 CPA 仕様のチェックイン」の横にある「実行」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに、CPA の CollaborationProtocolAgreement エlement 下の cpaid 属性として定義される値を入力します。
4. 「新規 CPA 仕様を定義するための入力モードの選択」の「CPA 仕様テキスト・エディター」を選択して、「次へ」をクリックします。
5. 「説明」フィールドに、CPA の識別に役立つ説明を入力します。
6. 「CPA 仕様」フィールドに、CPA を構成する XML コードを入力するか、またはコピーして貼り付けて、「次へ」をクリックします。
7. 「ビジネス・プロセスで使用可能」が選択されていることを確認して、「終了」をクリックし、CPA をチェックインします。

第 17 部 BPSS 拡張機能の作成

始める前に

BPSS 拡張機能を作成して、1 つ以上のビジネス・プロセスをスキーマの要求または応答アクティビティに割り当てます。

このタスクについて

BPSS 拡張機能を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理 (Admin)」メニューから、「EBXML」 > 「BPSS 拡張機能」を選択します。
2. 「新規 BPSS 拡張機能の作成」の横にある「実行」をクリックします。
3. 「BPSS 拡張機能名」を割り当てます。プルダウンを使用して、以下のフィールドに有効な値を選択します。

フィールド	説明
CPA ID	IBM Sterling B2B Integrator にチェックイン済みのコラボレーション・プロトコル合意 (CPA) ID。必須。
BPSS 名	選択された CPA において、(プロセス仕様として) 指定された BPSS。必須。
BPSS バージョン	選択された BPSS の有効なバージョン。必須。
BPSS 拡張機能名	新規拡張機能の名前。必須。

4. すべての要求または応答アクティビティに関して、バイナリー・コラボレーションおよび内部プロセスを選択します。「次へ (Next)」をクリックします。
5. 変更を確認して「終了」をクリックし、拡張機能を作成します。

タスクの結果

これで BPSS に関する CPA をチェックインする準備ができました。

第 18 部 ebXML について

ebXML を実装する場合、ebXML は CPA からデジタル鍵証明書を取得できないことを考慮に入れてください。BPML の XPath は不適切で Ping/Pong をテストできないためです。

これを修正するには、以下の 2 つのビジネス・プロセスを編集する必要があります。

- ebXMLMessaging
- ebXMLInbound

第 23 章 ebXMLMessaging の編集

このタスクについて

ebXMLMessaging を編集するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「SignCertificateIdentifier」のテキストを検索します。このテキストは、ebXMLDSig サービス内部の割り当てタグの「to」属性です。
2. 「from」属性の xpath を次のように編集します。

```
"cpa/tp:CollaborationProtocolAgreement/tp:PartyInfo[1]/tp:Certificate[@tp:certId/text() = //ProcessData/cpa/tp:CollaborationProtocolAgreement/tp:PartyInfo[1]/tp:DocExchange/tp:ebXMLSenderBinding/tp:SenderNonRepudiation/tp:SigningCertificateRef/@tp:certId/text()]/ds:KeyInfo/ds:KeyName/text()"
```

第 24 章 ebXMLInbound の編集

このタスクについて

ebXMLInbound を編集するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「signCertificateIdentifier」のテキストを検索します。このテキストは、ebXMLDSig サービス内部の割り当てタグの「to」属性です。
2. 「from」属性の xpath を次のように編集します。 "request/tp:CollaborationProtocolAgreement/tp:PartyInfo[1]/tp:Certificate[@tp:certId/text() = //ProcessData/request/tp:CollaborationProtocolAgreement/tp:PartyInfo[1]/tp:DocExchange/tp:ebXMLSenderBinding/tp:SenderNonRepudiation/tp:SigningCertificateRef/@tp:certId/text()]/ds:KeyInfo/ds:KeyName/text()"
3. ebXML で Ping/Pong をテストできるようにするために、「isAcknowledgement」のテキストを検索します。
4. この規則に 2 つの条件を追加します。
 - a. "or IboundMIME/mime:message/mime:body/mime:message[1]/mime:body/SOAP-ENV:Envelope/SOAP-ENV:Header/eb:MessageHeader/eb:Action/text() = 'Ping'"
 - b. "or InboundMIME/mime:message/mime:body/mime:message[1]/mime:body/SOAP-ENV:Envelope/SOAP-ENV:Header/eb:MessageHeader/eb:Action/text() = 'StatusRequest'"

第 19 部 ebXML CPA ルックアップ

始める前に

ebXML CPA ルックアップは固有のサービス名を出力しないため、ebCPALookup.xslt ビジネス・プロセスを編集する必要があります。

このタスクについて

ebCPALookup.xslt ビジネス・プロセスを編集するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「tp:Service」のテキストを検索します。
2. 編集前 (以下のパラグラフを置き換えます): <xsl:choose>

```
<xsl:when test="$action!=''">

<tp:ServiceBinding>

<xsl:copy-of elect="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:Service"/>

<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() = $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() != $partyId)">

<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanReceive/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action]"/>

</xsl:if>

<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() != $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() = $partyId)">

<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanSend/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action]"/>

</xsl:if>

</tp:ServiceBinding>

</xsl:when>

<xsl:otherwise>

<tp:ServiceBinding>
```

```

<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:Service"/>

<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() = $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() != $partyId)">

<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=$businessTransactionActivity and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:requestOrResponseAction=$requestOrResponseAction] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanReceive/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=$businessTransactionActivity and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:requestOrResponseAction=$requestOrResponseAction]"/>

</xsl:if>

<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() != $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() = $partyId)">

<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=$businessTransactionActivity and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:requestOrResponseAction=$requestOrResponseAction] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanSend/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=$businessTransactionActivity and
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:requestOrResponseAction=$requestOrResponseAction]"/>

</xsl:if>

</tp:ServiceBinding>

</xsl:otherwise>

</xsl:choose>

```

編集後 (以下のパラグラフに置き換えます):

```

<xsl:choose>
<xsl:when test="$action!=''">
<tp:ServiceBinding>
<tp:Service><xsl:value-of select="$service"/></tp:Service>
<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() = $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() != $partyId)">
<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanReceive/
tp:CanSend[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action]"/>
</xsl:if>
<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() != $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() = $partyId)">
<xsl:copy-of select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action] |
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding/tp:CanSend/
tp:CanReceive[tp:ThisPartyActionBinding/@tp:action=$action]"/>
</xsl:if>
</tp:ServiceBinding>
</xsl:when>
<xsl:otherwise>
<tp:ServiceBinding>
<xsl:if test="($flag='outgoing' and tp:PartyId/text() = $partyId) or
($flag='incoming' and tp:PartyId/text() != $partyId)">
<tp:Service><xsl:value-of
select="tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding[tp:CanSend/
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and tp:CanSend/
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=$businessTransactionActivity and
tp:CanSend/tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:requestOrResponseAction=$requestOrResponseAction]/tp:Service/text()
|
tp:CollaborationRole/tp:ServiceBinding[tp:CanReceive/tp:CanSend/
tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:binaryCollaboration=$binaryCollaboration and tp:CanReceive/

```

tp:CanSend/tp:ThisPartyActionBinding/tp:ActionContext/
@tp:businessTransactionActivity=\$businessTransactionActivity and

第 20 部 AFT を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成

始める前に

拡張ファイル転送 (AFT) 機能は別個にライセンス交付されます。

このタスクについて

AFT を使用する基本取引パートナー・プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「基本」を選択します。
2. 「取引パートナーの作成」の「交換のタイプ (Type of Exchange)」を選択し、「ファイル転送」を選択して「次へ」をクリックします。
3. 「拡張ファイル転送」メニューに移動します。「拡張ファイル転送 (*Advanced File Transfer*)」を参照してください。

第 21 部 FTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成

このタスクについて

FTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「基本」を選択します。
2. 「取引パートナーの作成」の「交換のタイプ (Type of Exchange)」を選択し、「一般ドキュメント」を選択して「次へ」をクリックします。
3. 取引パートナー情報を指定します。「ID」ページで、以下の取引パートナー情報を入力して「次へ」をクリックします。

取引パートナー情報フィールド	説明
名前	ID レコードを作成する取引パートナーの名前。必須。
ID	この取引パートナーを識別するプライマリー ID。 Data Universal Numbering System (DUNS) 番号、EDI 交換 ID、E メール・アドレス、またはその他の固有のストリングを使用できます。必須。
住所行 1 (Address Line 1)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。必須。
住所行 2 (Address Line 2)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。オプション。
市区町村 (City)	この取引パートナーが所在する市区町村。必須。
都道府県 (State or Province)	ID で示される取引パートナーの組織が所在する都道府県。オプション。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	この取引パートナーの所在地の郵便番号。必須。
E メール・アドレス (E-mail Address)	取引パートナーの E メール・アドレス。オプション。
電話番号 (Telephone Number)	取引パートナーの電話番号。オプション。
時間帯	リストから時間帯を選択します。オプション。
国 (Country)	リストから国を選択します。オプション。

4. 「プロトコル」ページで「FTP」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 通信設定を指定します。「通信」ページで以下の情報を入力し、「次へ」をクリックします。

通信フィールド	説明
エンドポイント IP	サーバーが着信セッションをモニターする IP アドレス。有効な値は、有効な IP アドレスです。オプション。
エンドポイント・ポート	サーバーが着信セッションをモニターする IP ポート。有効な値は、有効なポート番号です。オプション。
ディレクトリー	ピックアップのためにアウトバウンド・データを保管する取引パートナーのサーバー上のディレクトリー名。アウトバウンド・セッションに使用されます。オプション。
プロトコル・モード	プロトコル (FTP) が使用するモードまたは方式。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 書き込み (PUT) – FTP 接続を行う際に相手側にデータを送信します。 取得 (GET) – 相手側からデータを受信します。
ドキュメント	選択したプロトコル・モードで取得されるドキュメント。「書き込み (PUT)」を選択した場合はオプションです。 注: プロトコル・モードとして「取得 (GET)」を選択した場合、指定するドキュメントが相手側の取引パートナーの FTP サーバー上に存在する必要があります。 注: 相手側の取引パートナーの FTP サーバーから「取得 (GET)」するドキュメント (ファイル名) ごとに個別のプロファイルが必要です。
ユーザー ID	トランスポート・レコードに関連付けられた固有の ID。通信を行う FTP サーバーから提供されます。FTP の場合は必須。
パスワード	通信を行うサーバーから提供されるパスワード。ユーザー ID を認証します。FTP の場合は必須。

- 「確認」ページで取引パートナー情報を確認して、「終了」をクリックします。
- 作成されたデフォルト情報を確認します。任意のデフォルト・レコード名をクリックして編集するか、または「戻る」をクリックして続行します。

レコード・タイプ	デフォルト・レコード名
トランスポート	transport_identityname_timestamp
ドキュメント交換	docexchange_identityname_timestamp
デリバリー・チャンネル	delivchan_identityname_timestamp
パッケージ	packaging_identityname_timestamp
プロファイル	profile_identityname_timestamp

第 22 部 HTTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成

このタスクについて

HTTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「基本」を選択します。
2. 「取引パートナーの作成」の「交換のタイプ (Type of Exchange)」を選択し、「一般ドキュメント」を選択して「次へ」をクリックします。
3. 取引パートナー情報の設定を指定します。「ID」ページで、以下の取引パートナー情報を入力して「次へ」をクリックします。

取引パートナー情報フィールド	説明
名前	ID レコードを作成する取引パートナーの名前。必須。
ID	この取引パートナーを識別するプライマリー ID。 Data Universal Numbering System (DUNS) 番号、EDI 交換 ID、E メール・アドレス、またはその他の固有のストリングを使用できます。必須。
住所行 1 (Address Line 1)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。必須。
住所行 2 (Address Line 2)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。オプション。
市区町村 (City)	この取引パートナーが所在する市区町村。必須。
都道府県 (State or Province)	ID で示される取引パートナーの組織が所在する都道府県。オプション。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	取引パートナーの所在地の郵便番号。必須。
E メール・アドレス (E-mail Address)	取引パートナーの E メール・アドレス。オプション。
電話番号 (Telephone Number)	取引パートナーの電話番号。オプション。
時間帯	リストから時間帯を選択します。オプション。
国 (Country)	リストから国を選択します。オプション。

4. 「プロトコル」ページで「HTTP」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 通信設定を指定します。「通信」ページで以下の情報を入力し、「次へ」をクリックします。

通信フィールド	説明
エンドポイント	サーバーに接続可能なアドレス。有効な値は、次の形式の URL です (http://<サーバー IP アドレス>:<ポート番号>)。必須。

6. 「確認」ページで取引パートナー情報を確認して、「終了」をクリックします。
7. 作成されたデフォルト情報を確認します。 任意のデフォルト・レコード名をクリックして編集するか、または「戻る」をクリックして続行します。

レコード・タイプ	デフォルト・レコード名
トランスポート	transport_identityname_timestamp
ドキュメント交換	docexchange_identityname_timestamp
デリバリー・チャンネル	delivchan_identityname_timestamp
パッケージ	packaging_identityname_timestamp
プロファイル	profile_identityname_timestamp

第 23 部 SMTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルの作成

このタスクについて

SMTP を使用する基本取引パートナー・プロファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「基本」を選択します。
2. 「取引パートナーの作成」の「交換のタイプ (Type of Exchange)」を選択し、「一般ドキュメント」を選択して「次へ」をクリックします。
3. 取引パートナー情報の設定を指定します。「ID」ページで、以下の取引パートナー情報を入力して「次へ」をクリックします。

取引パートナー情報フィールド	説明
名前	ID レコードを作成する取引パートナーの名前。必須。
ID	この取引パートナーを識別するプライマリー ID。 Data Universal Numbering System (DUNS) 番号、EDI 交換 ID、E メール・アドレス、またはその他の固有のストリングを使用できます。必須。
住所行 1 (Address Line 1)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。必須。
住所行 2 (Address Line 2)	この取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。オプション。
市区町村 (City)	この取引パートナーが所在する市区町村。必須。
都道府県 (State or Province)	ID で示される取引パートナーの組織が所在する都道府県。オプション。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	この取引パートナーの所在地の郵便番号。必須。
E メール・アドレス (E-mail Address)	取引パートナーの E メール・アドレス。オプション。
電話番号 (Telephone Number)	取引パートナーの電話番号。オプション。
時間帯	リストから時間帯を選択します。オプション。
国 (Country)	リストから国を選択します。オプション。

4. 「プロトコル」ページで「SMTP」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 通信設定を指定します。「通信」ページで以下の情報を入力し、「次へ」をクリックします。

通信フィールド	説明
メールボックス名	メール・サーバーのメールボックス名、別名、または ID 番号。E メール・アドレスごとに固有である必要があります。必須。
送信元 (From)	送信側の E メール・アドレス。必須。
宛先 (To)	受信側の E メール・アドレス。「メール送信先 (Mail To)」と同じです。必須。

6. 「確認」ページで取引パートナー情報を確認して、「終了」をクリックします。
7. 作成されたデフォルト情報を確認します。任意のデフォルト・レコード名をクリックして編集するか、または「戻る」をクリックして続行します。

レコード・タイプ	デフォルト・レコード名
トランスポート	transport_identityname_timestamp
ドキュメント交換	docexchange_identityname_timestamp
デリバリー・チャンネル	delivchan_identityname_timestamp
パッケージ	packaging_identityname_timestamp
プロフィール	profile_identityname_timestamp

第 24 部 拡張取引パートナー・プロファイルの作成

このタスクについて

取引パートナーの拡張プロファイルを設定アップするには、次の一連の作業を実行します。

手順

1. ID レコードの作成
2. トランSPORT・レコードの作成
3. ドキュメント交換レコードの作成
4. デリバリー・チャンネル・レコードの作成
5. パッケージ・レコードの作成
6. プロファイル・レコードの作成

第 25 部 ID レコードの作成

このタスクについて

ID レコードを作成するには、以下のようにします。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「ID」を選択します。
2. 「作成」の「新規 ID (New Identity)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「ID」ページで、以下のいずれかを行います。
 - 既存の取引プロファイルのすべてのコンポーネントを継承する ID レコードを作成するには、「基本 ID の選択 (Select Base Identity)」から ID を選択し、「次へ」をクリックします。
 - プロパティを指定するには、「基本 ID の選択 (Select Base Identity)」を空白のままにして、「次へ」をクリックします。
4. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドを入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	取引プロファイルに作成する ID レコードの名前。必須。
参照 URL	Uniform Resource Locator (URL) は、取引パートナーのインターネット・アドレスです。オプション。
DUNS	Data Universal Numbering System (DUNS) は、Dun & Bradstreet Corporation によって発行される 9 字の固有会社 ID 番号です。オプション。
ID	ID レコードのプライマリー ID。DUNS 番号、EDI 交換 ID、E メール・アドレス、またはその他の固有ストリングを使用できます。必須。
住所行 1 (Address Line 1)	取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。必須。
住所行 2 (Address Line 2)	取引パートナー組織の追加郵送住所情報。オプション。
市区町村 (City)	取引パートナーが所在する市区町村。必須。
都道府県 (State or Province)	ID で示される取引パートナーの組織が所在する都道府県。オプション。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	取引パートナーの所在地の郵便番号。必須。
E メール・アドレス (E-mail Address)	取引パートナーの E メール・アドレス。オプション。
電話番号 (Telephone Number)	取引パートナーの電話番号。オプション。

情報フィールド	説明
時間帯	取引パートナーの所在地の時間帯。オプション。
国 (Country)	取引パートナーが所在する国。オプション。

5. 「終了」をクリックして、ID を追加します。
6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 26 部 ドキュメント交換レコードの作成

このタスクについて

ドキュメント交換レコードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「ドキュメント交換」を選択します。
2. 「作成」の「新規ドキュメント交換」の横にある「実行」をクリックします。
3. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドを入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	この取引プロファイルに作成するドキュメント交換レコードの名前。必須。
ID	ID レコードに関連付けられた固有の ID。これにより、このドキュメント交換レコードを ID レコードにリンクします。この ID は、ID レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。必須。

4. 再試行設定を指定します。「再試行設定」ページで、以下のフィールドを入力して「次へ」をクリックします。

再試行設定フィールド	説明
再試行回数	タイムアウトするまでに IBM Sterling B2B Integrator が取引パートナーへの接続を試行する回数。ゼロ (0) は無効です。必須。
再試行間隔 (秒)	前の試行がタイムアウトになってから IBM Sterling B2B Integrator が取引パートナーへの接続を再試行するまでに待機する秒数。ゼロ (0) は無効です。必須。 注: 取引プロファイルのドキュメント交換でこの部分の上書きを回避するため、基本ドキュメント交換で「再試行間隔」フィールドを編集するたびに、継承したドキュメント交換の「再試行間隔」フィールドを手動で設定してください。
保持期間 (秒) (Persist Duration (sec))	受信したメッセージを統合エンジンに受け渡す前に保持する秒数。ゼロ (0) は無効です。必須。

5. エンベロープのプロパティの設定を指定します。「エンベロープのプロパティ」のページで、以下のフィールドを入力して「次へ」をクリックします。「なし (None)」を選択した場合は、ステップ 7 に進みます。

エンベロープのプロパティのフィールド	説明
プロトコル	EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。使用されるセキュリティ・プロトコルを特定します。有効な値は、「SMIME」および「なし (NONE)」(デフォルト) です。必須。

6. セキュリティ設定を指定します。「セキュリティ」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

セキュリティ・フィールド	説明
暗号化アルゴリズム	<p>暗号化を必要とするペイロード・タイプが選択されている場合に、EDIINT メッセージ・サービスによってのみ使用されます。使用される暗号化アルゴリズムを特定します。プロトコルの値が「なし (None)」以外の場合は必須です。サポートされるアルゴリズムは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Triple-DES 168 CBC、PKCS5 を埋め込み • 56 ビット DES CBC、PKCS5 を埋め込み • 128 ビット RC2 CBC、PKCS5 を埋め込み • 40 ビット RC2 CBC、PKCS5 を埋め込み
署名アルゴリズム	<p>取引パートナーにデータを転送するために、EDIINT メッセージ・サービスによってのみ使用されます。署名済みメッセージの固定長の圧縮表記を特定します。必須。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MD5 – 128 ビットのメッセージ・ダイジェストによってデータの完全性を検証するメッセージ・ダイジェスト・アルゴリズム。 • SHA1 – 160 ビット (20 バイト) のメッセージ・ダイジェストによってデータの完全性を検証するセキュア・ハッシュ・アルゴリズム。MD5 に比べて送信速度はやや劣るものの、メッセージ・ダイジェストのサイズが大きい分、よりセキュアなデータ転送を提供します。
署名鍵証明書	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。ID の暗号鍵のための鍵証明書。使用可能な場合、SMIME を使用する場合にメッセージの暗号化に使用されます。メッセージの対称アルゴリズム強度が選択されている場合は必須です。</p> <p>注: これは EDIINT メッセージ・サービスが作成するメッセージに署名するための秘密鍵としても使用されます。署名鍵証明書は、暗号化が選択されている場合は必要ありません。</p> <p>注: メッセージが署名済みであることを保証するには、デリバリー・チャンネル・レコードを作成する際に、「発信元の否認防止」も選択する必要があります。</p>

セキュリティー・フィールド	説明
複数の証明書の構成 (Config Multi Certs)	<p>IBM Sterling B2B Integrator 内の 1 つの証明書に対して複数のデジタル証明書を構成し、時間枠、ステータス、およびに証明書順序に基づいて、どの証明書を使用するかを自動化できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数の証明書を名前で選択 (Select multiple certificates by name) – 右向きまたは左向きの矢印をクリックして、選択した証明書を「使用 (used)」欄に移動するか、または「使用」欄から移動します。 • 証明書順序の指定 (Specify a Certificate Order) – 使用する証明書をシステムが検索する順序を指定します。この順序に従って最初に見つかった、ステータスが「OK」で、かつ指定された時間枠に適合する証明書が使用されます。 • ステータスの指定 (Specify Status) – 証明書の現在のステータスが記録される読み取り専用フィールドです。 • 発効日付の編集 (Edit Go Live Date) – デフォルトは証明書の「発効日付 (Not Before Date)」です。証明書の日付を保持するか、またはデフォルトの日付より後の日付に変更するかを選択できます。このフィールドは証明書の日付を上書きするのではなく、その証明書を使用するタイミングをシステムに指定します。証明書の「発効日付 (Not Before Date)」より前の日付を指定することはできません。また、このフィールドには、このウィンドウ内の「失効日付」より後の日付を指定することはできません。日付は mm/dd/yy 形式で入力します。 • 失効日付の編集 (Edit Not After Date) – このフィールドのデフォルトは証明書の「失効日付」です。この日付を保持するか、またはデフォルトの日付より前の日付に値を変更するかを選択できます。このフィールドは証明書の日付を上書きするのではなく、その証明書を使用するタイミングをシステムに指定します。ウィンドウ内の「発効日付 (Not Before Date)」より前の日付を指定することはできません。また、このフィールドには、証明書の「失効日付」より後の日付を指定することはできません。日付は mm/dd/yy 形式で入力します。 <p>注: 「複数の証明書の構成 (Config Multi Certs)」のリンクは、複数の証明書を使用できる場合にのみ表示されます。</p>
署名ユーザー証明書	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。取引パートナーの署名証明書に対するトラステッド証明書です。署名アルゴリズムが選択されている場合は必須です。</p> <p>注: これはまた、EDIINT メッセージ・サービスが受信メッセージ上の署名を検証するためのトラステッド証明書としても使用されます。</p>

7. 「終了」をクリックして、ドキュメント交換レコードを追加します。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 27 部 トランスポート・レコードの作成

このタスクについて

トランスポート・レコードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「トランスポート」を選択します。
2. 「作成」の「新規トランスポート」の横にある「実行」をクリックします。
3. トランスポート設定を指定します。「トランスポート」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	この取引プロファイルに作成するトランスポート・レコードの名前。必須。
ID	トランスポート・レコードを ID レコードにリンクするために、リストから ID レコードの名前を選択します。必須。

4. 通信設定を指定します。「通信」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

通信フィールド	説明
受信プロトコル	データ受信時にこのトランスポートがサポートする通信プロトコル。有効な値は、FTP、HTTP、および SMTP です。必須。
送信プロトコル	データ送信時にこのトランスポートがサポートする通信プロトコル。有効な値は、FTP、HTTP、SMTP、およびブランクです。オプション。
エンドポイント IP	サーバーに接続するための IP アドレス。有効な値は、有効な IP アドレスです。オプション。
エンドポイント・ポート	サーバーが着信セッションをモニターするためのポート。有効な値は、有効なポート番号です。オプション。

5. ステップ 4 の選択に従って、以下のいずれかを実行します。
 - 受信プロトコルとして FTP を選択した場合は、『FTP 設定の指定 (Specifying FTP Settings)』に進みます。
 - 受信プロトコルとして HTTP を選択した場合は、『HTTP 設定の指定 (Specifying HTTP Settings)』に進みます。
 - 受信プロトコルとして SMTP を選択した場合は、『SMTP 設定の指定 (Specifying SMTP Settings)』に進みます。

第 25 章 FTP 設定の指定

このタスクについて

トランスポート・レコードの一部として FTP 設定を指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 転送設定を指定します。「転送設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

転送設定フィールド	説明
転送モード	ネットワーク・ファイアウォールを介して FTP セッションを開始する側を特定します。デフォルト転送モードの「アクティブ」は、IBM Sterling B2B Integrator がクライアントに接続を行うことを示します。「パッシブ」転送モードは、クライアントが接続を行うことを示します。必須。
ディレクトリー	取引パートナーのサーバー上のディレクトリー名。アウトバウンド・データはこのディレクトリーに保管され、取引パートナーによるピックアップを待ちます。アウトバウンド・セッションに使用されます。オプション。
ローカル・データ・ポート範囲	FTP 接続を確立してデータ転送を行うために取引パートナーのサーバー上で使用されるローカル制御ポート番号。有効な値は、ご使用のシステムに最適な任意の正数です。ゼロ (0) を指定すると、オペレーティング・システムによるポート番号の選択が可能になります。オプション。
ローカル制御データ・ポート範囲	制御チャンネルの制御/コマンド接続に使用するためのローカル制御ポート番号。アウトバウンド・セッションに使用されます。システム上の他のシステムによって使用されていないポートを選択します。ゼロ (0) を指定すると、オペレーティング・システムによるポート番号の選択が可能になります。オプション。

2. プロトコル設定を指定します。「プロトコル設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

プロトコル設定フィールド	説明
応答タイムアウト (秒)	アウトバウンド・キューに対する相手側の応答を待つ秒数。アウトバウンド・セッションに使用されます。有効な値は秒数です。ゼロ (0) は、無期限に待機することを示します。オプション。
ファイアウォール・プロキシー	相手側ファイアウォールの IP アドレス、ポート番号、ログイン ID、およびパスワード。アウトバウンド・セッションに使用されます。値はコンマで区切ってください。使用する場合、ログイン ID とパスワードの両方を指定する必要があります。オプション。
ファイアウォール接続カウント (Firewall Connect Count)	IBM Sterling B2B Integrator がトランスポートのポート・アドレスに接続を試行してタイムアウトになるまでの秒数。オプション。
ソケット・タイムアウト (秒)	コマンドに対する相手側の応答を待つ秒数。有効な値は、ご使用のシステムに最適な任意の正数です。ゼロ (0) は、無期限に待機することを示します。オプション。

3. セキュリティー設定を指定します。「セキュリティ」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

セキュリティ・フィールド	説明
SMIME 暗号化ユーザー証明書	取引パートナーの暗号化証明書。EDIINT メッセージ・サービスはメッセージを暗号化するために証明書を使用します。オプション。
SMIME 暗号化解除証明書 (システム・ストア)	オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • B2BHttp • UIKey • OpsDrv • OpsKey

セキュリティ・フィールド	説明
複数の証明書の構成 (Config Multi Certs)	<p>IBM Sterling B2B Integrator 内の 1 つの証明書に対して複数のデジタル証明書を構成し、時間枠、ステータス、および証明書順序に基づいて、どの証明書を使用するかを自動化できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数の証明書を名前を選択 (Select multiple certificates by name) – 右向きまたは左向きの矢印をクリックして、選択した証明書を「使用 (used)」欄に移動するか、または「使用」欄から移動します。 • 証明書順序の指定 (Specify a Certificate Order) – 使用する証明書をシステムが検索する順序を指定します。この順序に従って最初に見つかった、ステータスが「OK」で、かつ指定された時間枠に適合する証明書が使用されます。 • ステータスの指定 (Specify Status) – 証明書の現在のステータスが記録される読み取り専用フィールドです。 • 発効日付の編集 (Edit Go Live Date) – デフォルトは証明書の「発効日付 (Not Before Date)」です。証明書の日付を保持するか、またはデフォルトの日付より後の日付に変更するかを選択できます。このフィールドは証明書の日付を上書きするのではなく、その証明書を使用するタイミングをシステムに指定します。証明書の「発効日付 (Not Before Date)」より前の日付を指定することはできません。また、このフィールドには、このウィンドウ内の「失効日付」より後の日付を指定することはできません。日付は mm/dd/yy 形式で入力します。 • 失効日付の編集 (Edit Not After Date) – このフィールドのデフォルトは証明書の「失効日付」です。この日付を保持するか、またはデフォルトの日付より前の日付に値を変更するかを選択できます。このフィールドは証明書の日付を上書きするのではなく、その証明書を使用するタイミングをシステムに指定します。ウィンドウ内の「発効日付 (Not Before Date)」より前の日付を指定することはできません。また、このフィールドには、証明書の「失効日付」より後の日付を指定することはできません。日付は mm/dd/yy 形式で入力します。 <p>注: 「複数の証明書の構成 (Config Multi Certs)」のリンクは、複数の証明書を使用できる場合にのみ表示されます。</p>

セキュリティー・フィールド	説明
SSL	Secure Sockets Layer (SSL) をアクティブにする必要があるかどうかを指定します。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> なし (NONE) – トランスポートは SSL を使用しません。 オプション – 指定した場合、FTP は SSL 暗号化を適切に処理します。 必須 (MUST) – トランスポートはこのプロトコルを SSL 暗号化用に構成して使用します (デフォルト)。 注: 「オプション」または「必須 (MUST)」を指定する場合、資産保護キーは該当するプロトコルに対して SSL を許可する必要があります。
鍵証明書パスフレーズ	サーバー鍵証明書を保護するパスフレーズ。SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です。
暗号強度	データの暗号化に使用されるアルゴリズムの強度。オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> すべて (ALL) 弱い (WEAK) – 国際的な e-ビジネスで、政府の法規制により強い暗号化のエクスポートが禁止されている場合は必須です。 強い (STRONG) – SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です (デフォルト)。
鍵証明書 (システム・ストア)	コンポーネントの秘密鍵および証明書。メッセージの暗号化および暗号化解除に使用されます。また、EDIINT メッセージ・サービスが暗号化されたメッセージを暗号化解除するための鍵としても使用されます。SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です。
CA 証明書	取引パートナーの証明書を検証するために使用される証明書。これは公開鍵です。サーバーの SSL 値が「必須 (Must)」または「オプション」の場合は必須です。

4. プロトコル・モード設定を指定します。「プロトコル・モード」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

プロトコル・モード・フィールド	説明
プロトコル・モード	プロトコル (FTP) が使用するモードまたは方式。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 書き込み (PUT) – FTP 接続を行う際に相手側にデータを送信します。 取得 (GET) – 相手側からデータを受信します。

プロトコル・モード・フィールド	説明
ドキュメント	<p>選択したプロトコル・モードで取得されるドキュメント。モードが「取得 (GET)」の場合、フィールドを空白のままにすることができます。「書き込み (PUT)」を選択した場合はオプションです。</p> <p>注: プロトコル・モードとして「取得 (GET)」を選択した場合、指定したドキュメントが相手側の取引パートナーの FTP サーバー上に存在する必要があります。</p>

5. トランスポート・アカウントの設定を指定します。「トランスポート・アカウント」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

トランスポート・アカウント・フィールド	説明
ユーザー ID	トランスポート・レコードに関連付けられた固有の ID。オプション。
パスワード	ユーザー ID を認証するパスワード。オプション。
パスワードの確認	パスワード・フィールドに入力されたパスワード。オプション。

6. 「終了」をクリックして、トランスポート・レコードを追加します。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 26 章 HTTP 設定の指定

このタスクについて

トランスポート・レコードの一部として HTTP 設定を指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. エンドポイント設定を指定します。「エンドポイント設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

エンドポイント・フィールド	説明
エンドポイント	トランスポートの HTTP アドレス。URL で指定できます。必須。
エンドポイント・タイプ	このエンドポイントの目的。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• ログイン – 最初の HTTP セッションが確立されるアドレス。• 要求 – HTTP 要求メッセージが送信されるアドレス。• 応答 – 応答メッセージが送信されるアドレス。• エラー – HTTP エラー・メッセージが送信されるアドレス。• すべての目的 – ログイン、要求、応答、またはエラー・メッセージに使用できるエンド・ポート。

2. プロトコル設定を指定します。「プロトコル設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

プロトコル設定フィールド	説明
応答タイムアウト (秒)	アウトバウンド・キューに対する相手側の応答を待つ秒数。アウトバウンド・セッションに使用されます。有効な値は秒数です。ゼロ (0) は、無期限に待機することを示します。オプション。
ファイアウォール・プロキシ	相手側ファイアウォールの IP アドレス、ポート番号、ログイン ID、およびパスワード。値はコンマで区切ってください。使用する場合、ログイン ID とパスワードの両方を指定する必要があります。アウトバウンド・セッションに使用されます。オプション。
ファイアウォール接続カウント (秒) (Firewall Connect Count (seconds))	IBM Sterling B2B Integrator がトランスポートのポート・アドレスに接続を試行してタイムアウトになるまでの秒数。オプション。

プロトコル設定フィールド	説明
ソケット・タイムアウト (秒)	コマンドに対する相手側の応答を待つ秒数。有効な値は、ご使用のシステムに最適な任意の正数です。ゼロ (0) は、無期限に待機することを示します。オプション。

3. セキュリティー設定を指定します。「セキュリティ」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

セキュリティ・フィールド	説明
SMIME 暗号化ユーザー証明書	取引パートナーの暗号化証明書。EDIINT メッセージ・サービスはメッセージを暗号化するために証明書を使用します。オプション。 注: 取引パートナーからトラステッド証明書を受信してチェックインすると、このフィールドからその証明書を選択できます。
SMIME 暗号化解除証明書 (システム・ストア)	オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • B2BHttp • UIKey • OpsDrv • OpsKey
SSL	Secure Sockets Layer (SSL) をアクティブにする必要があるかどうかを指定します。オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) – トランスポートは SSL を使用しません。 • オプション – 指定した場合、FTP は SSL 暗号化を適切に処理します。 • 必須 (Must) – トランスポートはこのプロトコルを SSL 暗号化用に構成して使用します (デフォルト)。 注: 「オプション」または「必須 (Must)」を指定する場合、資産保護キーは該当するプロトコルに対して SSL を許可する必要があります。
鍵証明書パスフレーズ	サーバー鍵証明書を保護するパスフレーズ。SSL 値が「なし (None)」以外の場合は必須です。

セキュリティー・フィールド	説明
暗号強度	データの暗号化に使用されるアルゴリズムの強度。オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • すべて (ALL) • 弱い (WEAK) – 国際的な e-ビジネスで、政府の法規制により強い暗号化のエクスポートが禁止されている場合は必須です。 • 強い (STRONG) – SSL 値が「なし (None)」以外の場合は必須です (デフォルト)。
鍵証明書 (システム・ストア)	コンポーネントの秘密鍵および証明書。メッセージの暗号化および暗号化解除に使用されます。また、EDIINT メッセージ・サービスが暗号化されたメッセージを暗号化解除するための鍵としても使用されます。SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です。 注: 取引パートナーから公開鍵証明書を受信してチェックインすると、このフィールドからその証明書を選択できます。
CA 証明書	取引パートナーの証明書を検証するために使用される証明書。これは公開鍵です。SSL 値が「必須 (Must)」または「オプション」の場合は必須です。

4. プロトコル・モード設定を指定します。「プロトコル・モード」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

プロトコル・モード・フィールド	説明
プロトコル・モード	プロトコル (FTP) が使用するモードまたは方式。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 書き込み (PUT) – FTP 接続を行う際に相手側にデータを送信します。 • 取得 (GET) – 相手側からデータを受信します。
ドキュメント	選択したプロトコル・モードで取得されるドキュメント。モードが「取得 (GET)」の場合、フィールドを空白のままにすることができます。「書き込み (PUT)」を選択した場合はオプションです。 注: プロトコル・モードとして「取得 (GET)」を選択した場合、指定したドキュメントが相手側の取引パートナーの FTP サーバー上に存在する必要があります。

5. トランスポート・アカウントの設定を指定します。「トランスポート・アカウント」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

トランスポート・アカウント・フィールド	説明
ユーザー ID	トランスポート・レコードに関連付けられた固有の ID。オプション。
パスワード	システムに対してユーザー ID を認証するパスワード。オプション。
パスワードの確認	パスワード・フィールドに入力されたパスワード。オプション。

6. 「終了」をクリックして、トランスポート・レコードを更新します。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 27 章 SMTP 設定の指定

このタスクについて

トランスポート・レコードの一部として SMTP 設定を指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. セキュリティー設定を指定します。「セキュリティ」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

セキュリティ・フィールド	説明
SMIME 暗号化ユーザー証明書	取引パートナーの暗号化証明書。 EDIINT メッセージ・サービスはメッセージを暗号化するために証明書を使用します。オプション。
SMIME 暗号化解除証明書 (システム・ストア)	オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• B2BHttp• UIKey• OpsDrv• OpsKey
SSL	Secure Sockets Layer (SSL) をアクティブにする必要があるかどうかを指定します。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• なし (NONE) – トランスポートは SSL を使用しません。• オプション – 指定した場合、FTP は SSL 暗号化を適切に処理します。• 必須 (MUST) – トランスポートはこのプロトコルを SSL 暗号化用に構成して使用します (デフォルト)。 注: 「オプション」または「必須 (MUST)」を指定する場合、資産保護キーは該当するプロトコルに対して SSL を許可する必要があります。
鍵証明書パスフレーズ	サーバー鍵証明書を保護するパスフレーズ。 SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です。
暗号強度	データの暗号化に使用されるアルゴリズムの強度。オプション。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• すべて (ALL)• 弱い (WEAK) – 国際的な e-ビジネスで、政府の法規制により強い暗号化のエクスポートが禁止されている場合は必須です。• 強い (STRONG) – SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です (デフォルト)。

セキュリティー・フィールド	説明
鍵証明書 (システム・ストア)	コンポーネントの秘密鍵および証明書。メッセージの暗号化および暗号化解除に使用されます。SSL 値が「なし (NONE)」以外の場合は必須です。また、EDIINT メッセージ・サービスが暗号化されたメッセージを暗号化解除するための鍵としても使用されます。
CA 証明書	取引パートナーの証明書を検証するために使用される証明書。これは公開鍵です。サーバーの SSL 値が「必須 (Must)」または「オプション」の場合は必須です。

2. SMTP 設定を指定します。「SMTP 設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

SMTP 設定フィールド	説明
メールボックス名	メール・サーバーのメールボックス名、別名、または ID 番号。必須。
送信元 (From)	送信側の E メール・アドレス。必須。
宛先 (To)	受信側の E メール・アドレス。「メール送信先 (Mail To)」と同じです。必須。
CC	CC E メール・アドレス。オプション。
BCC	BCC E メール・アドレス。オプション。

3. トランスポート・アカウントの設定を指定します。「トランスポート・アカウント」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

トランスポート・アカウント・フィールド	説明
ユーザー ID	トランスポート・レコードに関連付けられた固有の ID。オプション。
パスワード	ユーザー ID を認証するパスワード。オプション。
パスワードの確認	パスワード・フィールドに入力されたパスワード。オプション。

4. 「終了」をクリックして、トランスポート・レコードを更新します。
5. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 28 部 デリバリー・チャネル・レコードの作成

このタスクについて

デリバリー・チャネル・レコードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「デリバリー・チャネル」を選択します。
2. 「作成」の「新規デリバリーチャネル」の横にある「実行」をクリックします。
3. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドに入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	この取引プロファイルに作成するデリバリー・チャネル・レコードの名前。必須。
ID	デリバリー・チャネル・レコードを ID レコードにリンクする固有の ID。ID レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。必須。

4. チャネル定義設定を指定します。「チャネル定義」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

チャネル定義フィールド	説明
トランスポート	このデリバリー・チャネル・レコードをトランスポート・レコードにリンクするトランスポートの名前。トランスポート・レコードの「トランスポート名」フィールドと一致している必要があります。必須。
ドキュメント交換	このデリバリー・チャネル・レコードに関連付けられたドキュメント交換の名前。ドキュメント交換レコードの「ドキュメント交換名」フィールドと一致している必要があります。必須。

5. セキュリティー設定を指定します。「セキュリティー」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

セキュリティー・フィールド	説明
同期応答モード	<p>同期通信プロトコル (HTTP など) にバインドされる場合に、受信システムが予期する応答内容。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 応答のみ – ビジネス応答メッセージのみが返されます。 • シグナルと応答 – システムは 1 つ以上のビジネス・シグナルに加えて、ビジネス応答メッセージを返します。 • シグナルのみ – 応答には ebXML ビジネス・プロセス仕様スキーマ (ebBPSS) で定義された 1 つ以上のビジネス・シグナルが含まれますが、ビジネス応答メッセージは含まれません。 • msh シグナルのみ – 応答には、エラーまたは確認応答のみが含まれます。ビジネス応答メッセージまたはビジネス・シグナルは、非同期で返される必要があります。 • なし (NONE) – ビジネス応答メッセージ、ビジネス・シグナル、および msh シグナルのいずれも返されません (デフォルト)。
発信元の否認防止	<p>メッセージ送信側がデジタル証明書を使用してメッセージに署名を行う必要があるかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。</p>
受け取りの否認防止	<p>メッセージ受信側がデジタル証明書を使用してメッセージに署名を行う必要があるかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。</p>
セキュア・トランスポート	<p>デリバリー・チャンネル・レコードがセキュア・トランスポート・プロトコル (SSL や IPSEC など) を使用するかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。</p>
機密性	<p>メッセージを暗号化する必要があるかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。</p>
認証済み	<p>メッセージが予期された送信者から送信されたものであること、および転送中や保管中に変更されていないことを検証するために、メッセージのデジタル署名を検査する必要があるかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。</p>

セキュリティー・フィールド	説明
許可済み	メッセージをシステムに配信するために、メッセージ送信側が許可されている (ネットワーク・リソースへのアクセス権限が付与されている) 必要があるかどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。

6. 配信設定を指定します。「配信設定 (Delivery Settings)」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

配信設定 (Delivery Settings) フィールド	説明
受信タイプ	EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。要求する受信タイプを指定します。有効な値は、「メッセージ開封通知 (MDN) (Message Disposition Notification (MDN))」および「なし(NONE)」(デフォルト) です。必須。
受信署名タイプ	取引パートナーにデータを転送するために、EDIINT メッセージ・サービスによってのみ使用されます。受信側で要求される固定長のメッセージ圧縮表記を特定します。必須。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> なし (None) MD5 - 128 ビットのメッセージ・ダイジェストによってデータの完全性を検証するメッセージ・ダイジェスト・アルゴリズム。 SHA1 - 160 ビット (20 バイト) のメッセージ・ダイジェストによってデータの完全性を検証するセキュア・ハッシュ・アルゴリズム。MD5 に比べて送信速度はやや劣るものの、メッセージ・ダイジェストのサイズが大きい分、よりセキュアなデータ転送を提供します。 <p>注: 「なし (None)」以外の値を選択した場合、取引パートナーへのメッセージを作成する際に、EDIINT メッセージ・サービスは署名済みのメッセージ開封通知 (MDN) を要求します。</p>
受信タイムアウト	予期された MDN の受信に対するタイムアウト値 (秒)。オプション。

配信設定 (Delivery Settings) フィールド	説明
配信モード	<p>受信メッセージに対する受信配信を行うために EDIINT メッセージ・サービスによってのみ使用されます。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 非同期 HTTP – 非同期受信が必要な場合に AS2 および RosettaNet に使用されます。 • 非同期 HTTPS – 非同期受信が必要な場合に AS2 に使用されます。 • 非同期 SMTP – 非同期受信が必要な場合に AS1 および AS2 に使用されます。 • 同期 – 同期受信が必要な場合に AS2 に使用されます。
受信先アドレス	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。受信の送信先を示します (関連付けられた ID 内の E メール・アドレスに送信しない場合)。非同期 MDN を要求する EDIINT AS2 を使用している場合は必須です。メッセージ送信先の完全な URL を入力する必要があります。必須。</p>

7. 「終了」をクリックして、デリバリー・チャンネル・レコードを追加します。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 29 部 パッケージ・レコードの作成

このタスクについて

パッケージ・レコードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「パッケージ」を選択します。
2. 「作成」の「新規パッケージ」の横にある「実行」をクリックします。
3. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドに入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	この取引プロファイルに作成するパッケージ・レコードの名前。必須。
構文解析可能メッセージ	メッセージの構文解析が可能かどうかを指定します。有効な値は「はい」および「いいえ」です。必須。

4. パッケージの設定を指定します。「パッケージの設定」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

パッケージの設定のフィールド	説明
ペイロード・タイプ	EDIINT メッセージを作成するために EDIINT メッセージ・サービスによってのみ使用されます。ペイロードとは、メッセージの内部レベルにあるドキュメントです。ペイロード・タイプは、ドキュメントを転送するためのメッセージ・フォーマットを記述します。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• プレーン・テキスト – ペイロードは署名も暗号化もされていません。• 署名済み、デタッチ済み – ペイロードは EDIINT 仕様に従ってデタッチ済み署名で署名されています。• 暗号化済み – ペイロードは EDIINT 仕様に従って暗号化されています。• 署名済み、デタッチ済み、暗号化済み – ペイロードは EDIINT 仕様に従ってデタッチ済み署名で署名された後、暗号化されています。

パッケージの設定のフィールド	説明
MIME タイプ	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。送信されるペイロード・コンテンツの最下層レベル (メッセージの内部レベルにあるドキュメント) のパッケージ方法を示します。受信プログラムは特定の MIME タイプおよびサブタイプを予期する場合がありますため、EDIINT 仕様を適切に実装できるようにサポートするとともに、ある程度の柔軟性を提供します。必須。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テキスト - XML またはテキストの場合 • アプリケーション (Application) - EDI またはその他任意のデータ・タイプの場合 • メッセージ • 音声 • ビデオ • イメージ
MIME サブタイプ	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。送信されるペイロード・コンテンツの最下層レベル (メッセージの内部レベルにあるドキュメント) のパッケージ方法を示します。必須。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EDI-X12 (デフォルト) • EDIFACT • EDI-Consent • Octet-stream - 任意のデータ・タイプ用 • XML • 標準 (Plain)
圧縮データ	<p>EDIINT メッセージ・サービスでのみ使用されます。ペイロードを圧縮する必要があるかどうかを指定します。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • 低 (Low) • 中 (Medium) • 高 (High) • デフォルト

5. 「終了」をクリックして、パッケージ・レコードを追加します。
6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 30 部 取引パートナー・プロファイル・レコードの作成

このタスクについて

取引パートナー・プロファイル・レコードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「プロファイル」を選択します。
2. 「新規プロファイルの作成」の横にある「実行」をクリックします。
3. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドを入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	この取引プロファイルに作成するプロファイル・レコードの名前。必須。
ID	このプロファイルをも ID レコードにリンクする固有の ID。ID レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。必須。

4. プロファイル定義設定を指定します。「プロファイル定義」ページで、以下のフィールドを入力して「次へ」をクリックします。

プロファイル・フィールド	説明
プロファイル・タイプ	この取引プロファイルで交換されるデータに使用されるプロファイルのタイプ。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• EDI (電子データ交換)• AS1 (Applicability Statement 1)• AS2 (Applicability Statement 2) 注: AS2 の取引パートナーを追加するお勧めの方法は、管理コンソールの「取引パートナー」>「AS2」にあります。 <ul style="list-style-type: none">• RN (RosettaNet)
GLN	この取引パートナーのグローバル・ロケーション番号。オプション。
デリバリー・チャンネル	このプロファイルをデリバリー・チャンネル・レコードにリンクする固有の ID。デリバリー・チャンネル・レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。必須。

プロファイル・フィールド	説明
パッケージ	この取引プロファイルをパッケージ・レコードにリンクする固有の ID。パッケージ・レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。必須。
プロバイダー	任意のサード・パーティー・サービス・プロバイダー名。必須。

5. プロファイル・タイプとして RN を選択した場合、RosettaNet 標準を使用する取引パートナー専用の別のページが示されます。入力し、「次へ」をクリックして続行します。
6. 「ビジネス・プロセス」ページで、以下のいずれかのステップを実行して「次へ」をクリックします。
 - 定義済みビジネス・プロセス (デフォルト) を使用可能にして特定のモードで取引パートナーと通信を行うには、該当するメッセージ・モードのリスト (送信、応答、要求/応答) から「該当なし」が選択されていることを確認します。
 - 定義済みビジネス・プロセス (デフォルト) 以外のビジネス・プロセスを選択して特定のモードで取引パートナーと通信を行うには、該当するメッセージ・モードのリスト (送信、応答、要求/応答) からビジネス・プロセスを選択します。

取引パートナーと通信するには、ビジネス・プロセスに B2B 送信サービス、B2B 応答サービス、または B2B 要求/応答サービスが組み込まれている必要があります。
7. 「終了」をクリックして、プロファイル・レコードを追加します。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 31 部 基本または拡張取引パートナー・レコードの更新

このタスクについて

基本または拡張プロファイルの取引パートナー・レコードを更新するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「レコード名 (Record Name)」を選択します。この場合、「レコード名 (Record Name)」は以下のいずれかです。
 - ID
 - トランスポート
 - ドキュメント交換
 - デリバリー・チャンネル
 - パッケージ
 - プロファイル
2. 「検索」または「リスト」を使用して、変更するレコードを見つけます。
3. レコード名の横にある「編集」をクリックします。
4. 取引パートナー・レコードの「情報」ページで変更を行い、「確認」ページが表示されるまで「次へ」をクリックします。
5. 「終了」をクリックして、取引パートナー・レコードを更新します。
6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 32 部 取引パートナー・レコードの使用不可化

このタスクについて

取引パートナー・レコードを使用不可にするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「レコード名 (Record Name)」を選択します。この場合、「レコード名 (Record Name)」は以下のいずれかです。
 - ID
 - トランスポート
 - ドキュメント交換
 - デリバリー・チャンネル
 - パッケージ
 - プロファイル
2. 「検索」または「リスト」を使用して、使用不可にするレコードを見つけます。
3. レコード名の横にある「使用可能」のボックスを選択解除します。レコードは使用不可になります。
4. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 33 部 取引パートナー・レコードの削除

このタスクについて

取引パートナー・レコードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「拡張」>「レコード名 (Record Name)」を選択します。この場合、「レコード名 (Record Name)」は以下のいずれかです。
 - ID
 - トランスポート
 - ドキュメント交換
 - デリバリー・チャンネル
 - パッケージ
 - プロファイル
2. 「検索」または「リスト」を使用して、削除するレコードを見つけます。
3. レコード名の横にある「削除」をクリックします。
4. 確認ボックスで、「OK」をクリックします。
5. 「要約」ページで「次へ」をクリックします。
6. 「確認」ページで「削除」をクリックします。レコードが削除されます。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 34 部 取引パートナー契約の作成

このタスクについて

取引パートナー契約を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「契約」を選択します。
2. 「作成」の「新規契約」の横にある「実行」をクリックします。
3. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドに入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	契約の記述名。必須。
開始日	契約の開始日。有効な値は、yyyy-mm-dd 形式の任意の日付です。終了日以前の日付でなければなりません。デフォルト値は現在日付です。必須。
終了日	契約の有効期限です。有効な値は、yyyy-mm-dd 形式の任意の日付です。開始日以降の日付でなければなりません。デフォルト値は現在日付の 1 週間後です。必須。
ステータス	契約を作成する構成/交渉プロセスの状態です。デフォルト値は「署名済み」です。必須。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 提示済み – 契約は当事者によって交渉中です。交渉の最初の段階です。• 合意済み – 契約は当事者によって合意済みです。交渉の次の段階です。• 署名済み – 契約は当事者によって署名済みです。交渉の最終段階です。契約は使用可能です。

4. 契約定義設定を指定します。「契約定義」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

契約定義フィールド	説明
プロデュース・プロファイル	この契約でプロデューサーとして機能するプロファイルの固有の ID。値は、ID 名-プロファイル名の形式で表示されます。必須。
コンシューム・プロファイル	この契約でコンシューマーとして機能するプロファイルの固有の ID。プロファイル・レコードの「名前」フィールドと一致している必要があります。値は、ID 名-プロファイル名の形式で表示されます。必須。

契約定義フィールド	説明
ビジネス・プロセス	この契約に関するビジネス・プロセスの固有の ID。オプション。

5. EDI での契約の使用予定に応じて、以下のいずれかの手順に従います。
- EDI での使用を予定している場合は、ステップ 6 に進み、EDI 拡張を選択します。
 - EDI で使用する予定がない場合は、「なし (None)」を選択して「次へ」をクリックします。「終了」をクリックして契約を完了します。
6. 「拡張」ページで、以下の拡張タイプのいずれかを選択します。
- X12。以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

X12 拡張フィールド	説明
送信側 ID	トランザクションを送信する企業または部門のコード化された ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。
受信側 ID	トランザクションを受信する企業または部門のコード化された ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。
交換テスト標識	この拡張に使用する動作モードのモード。必須。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • テスト • 実動 • 情報
グループ・バージョン・リリース ID コード	このグループ・バージョンのリリース ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。必須。
トランザクション集合 ID コード	トランザクション集合のコード化された ID。有効な値は、3 文字の標準文字です。必須。

- EDIFACT。以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

EDIFACT 拡張フィールド	説明
送信側 ID	この企業または部門に送信される交換ヘッダー・セグメントに含まれる必要がある交換 ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。
受信側 ID	この企業または部門から受信するメッセージ・グループ・ヘッダーに含まれる必要がある交換 ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。

EDIFACT 拡張フィールド	説明
メッセージ・タイプ	そのメッセージを含むメッセージ・グループのヘッダー内の情報タイプか、またはトランザクション・メッセージ内の情報タイプによって判別されるトランザクション・メッセージ・タイプ。有効な値は、6 文字の標準文字です。オプション。
メッセージ・バージョン番号	標準メッセージのバージョン番号。有効な値は、3 文字の標準文字です。オプション。
メッセージ・リリース番号	標準メッセージのリリース番号。有効な値は、3 文字の標準文字です。オプション。
交換テスト標識	このエンベロープに使用する動作モードのモード。オプション。

- CII。以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

CII 拡張フィールド。	説明
送信側 ID	メッセージ・グループを送信する企業または部門のコード化された名前。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。
受信側 ID	メッセージ・グループを受信する企業または部門のコード化された ID。有効な値は、12 文字の標準文字です。オプション。
BPID 組織	標準メッセージ・タイプを管理する組織 (例えば EIAJ) のコード ID。有効な値は、4 文字の標準文字です。オプション。
BPID サブ組織	メッセージ・タイプの分類コード ID。有効な値は、2 文字の標準文字です。オプション。
BPID エディション	メッセージ・タイプのバージョン・コード ID。有効な値は、2 文字の標準文字です。オプション。
情報 ID コード	標準メッセージのタイプ。有効な値は、4 文字の標準文字です。必須。

- ebXML (Electronic Business Extensible Markup Language)。以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

EbXML 拡張フィールド	説明
メッセージ・オーダー	取引パートナーが別の取引パートナーに送信するメッセージの順序を保持するかどうかを指定します。必須。有効な値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 保証付き (Guaranteed) • 保証なし (Not Guaranteed)

EbXML 拡張フィールド	説明
確認応答の要求	<p>受信側が解釈可能な交換伝送を受信したことを送信側に通知する確認応答を要求します。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 常時 (Always) • 要求しない (Never) • メッセージごと (Per message)
確認応答署名の要求	<p>メッセージを受信する取引パートナーが、送信側にメッセージを返信する前に確認応答に署名する必要があるかどうかを指定します。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 常時 (Always) • 要求しない (Never) • メッセージごと (Per message)
重複除去	<p>受信側の MSH が重複を除去する必要があるかどうかを指定するために、メッセージを送信する取引パートナーによって使用されます。必須。有効な値は、「はい」および「いいえ」です。</p>
BPSS の使用	<p>ビジネス・プロセスを定義するための標準構造を提供するビジネス・プロセス仕様スキーマ (BPSS) をこの拡張で使用するかどうかを指定します。必須。有効な値は、「はい」および「いいえ」です。「はい」を選択する場合は、以下のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BPSS 名 • BPSS バージョン • バイナリー・コラボレーション • プロデュース・プロファイルの役割 • コンシューム・プロファイルの役割
BPSS 名	この拡張で使用する BPSS の識別名。必須。
BPSS バージョン	この拡張で使用する BPSS のバージョン。有効な値は 1.1 です。必須。
バイナリー・コラボレーション	上記で選択された BPSS のすべてのバイナリー・コラボレーションのリスト。有効な値は選択された BPSS に基づきます。必須。
プロデュース・プロファイルの役割	<p>メッセージ・プロデューサーに関連付けられたプロファイルでの受信側 (リクエスター) および送信側 (プロバイダー) に関する ebXML 役割。必須。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リクエスター (requestor) • プロバイダー (provider)

EbXML 拡張フィールド	説明
コンシューム・プロファイルの役割	メッセージ・コンシューマー・プロファイルに関連付けられたプロファイルで送信側 (プロバイダー) を定義する ebXML 役割。オプション。有効な値は「プロバイダー (provider)」です。
応答受信までの時間 (分)	確認応答を受信するまでの制限時間 (分)。オプション。
確認承諾までの時間 (分)	確認応答を受信するまでの制限時間 (分)。オプション。
実行までの時間 (分)	トランザクションの起動側が、 <code>RequestingBusinessActivity</code> の開始から応答を受信するまでの制限時間 (分)。オプション。 注: 応答は、 <code>RespondingBusinessActivity</code> トランザクションに関連付けられたビジネス・ドキュメントです。
再試行回数	IBM Sterling B2B Integrator が、ビジネス・トランザクションの完了を再試行する最大回数。この回数を超えるとタイムアウトして受信確認応答を待ちます。この機能を無効にするには、チェック・ボックスをクリアします。オプション。

- ACH (Automated Clearing House)。以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

ACH 拡張フィールド	説明
宛先 ID	メッセージ送信先の ACH オペレーターまたは受信ポイントのルーティング番号。必須。
起点 ID	メッセージを送信している ACH オペレーターまたは送信ポイントのルーティング番号。必須。

7. 「終了」をクリックして拡張を追加します。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 35 部 取引パートナー契約の更新

このタスクについて

取引パートナー契約を更新するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「契約」を選択します。
2. 「すべてのリスト (List All)」の「実行」をクリックします。
3. 変更する取引パートナー契約の横にある「編集」をクリックします。
4. 必要な変更を行い、すべての契約データを確認するまで「次へ」をクリックします。
5. 「保存 (Save)」をクリックします。
6. 「終了」をクリックします。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 36 部 取引パートナー契約の削除

このタスクについて

取引パートナー契約を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「契約」を選択します。
2. 「すべてのリスト (List All)」の「実行」をクリックします。
3. 削除する取引パートナー契約の横にある「削除」をクリックします。
4. 削除を確認して「OK」をクリックします。
5. 「次へ (Next)」をクリックします。
6. 「削除」をクリックします。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 37 部 コード・リストの作成

このタスクについて

コード・リストを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 「新規コード・リスト」の横にある「実行」をクリックします。
3. ネーミング設定を指定します。「ネーミング」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

ネーミング・フィールド	説明
コード・リスト名	コード・リストの名前。必須。
送信側 ID	送信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。
受信側 ID	受信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。

4. 「コード」ページで、「新規コードの追加 (add New Code)」をクリックして新規のコード・ペアを追加します。
5. 入力コード・データの設定を指定します。「入力コード・データ」ダイアログ・ボックスで、以下のフィールドに入力して「保存」をクリックします。

入力コード・データ・フィールド	説明
送信側コード	受信側のコード値と相互参照する送信側のコード値 (例: Blue)。必須。
受信側コード	送信側のコード値と相互参照する受信側のコード値 (例: Green)。必須。
説明	送信側および受信側コードが表す内容の説明。必須。
テキスト 1	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 2	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 3	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 4	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。

6. 必要に応じてステップ 4 から 5 を繰り返して、追加のコード・ペアを作成します。終了したら、「次へ」をクリックします。
7. 「終了」をクリックして、コード・リストを追加します。

8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 38 部 コード・リストの更新

このタスクについて

コード・リストまたはそのコード・ペアを編集するたびに、新しいバージョンのコード・リストまたはコード・ペアを作成します。コード・リストまたはコード・ペアを更新するには、「管理」メニューから「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。

手順

1. 編集するコード・リストを検索します。
2. 「コード・リスト」の検索結果ページで、特定の送信側および受信側のコード・リストを識別するために使用される名前の横にある「ソース・マネージャー」をクリックします。
3. 「コード・リスト・ソース・マネージャー」ページで、コード・リストの横にある「編集」をクリックしてコード・リストをロックします。
4. 「ネーミング」ページで、「次へ」をクリックします。
5. 「コード」ページで、編集するコード・ペアの横にある「編集」をクリックします。
6. 入力コード・データを指定します。「入力コード・データ」ダイアログ・ボックスで、以下のフィールドに入力して「保存」をクリックします。

入力コード・データ・フィールド	説明
送信側コード	受信側のコード値と相互参照する送信側のコード値 (例: Blue)。必須。
受信側コード	送信側のコード値と相互参照する受信側のコード値 (例: Green)。必須。
説明	送信側および受信側コードが表す内容の説明。必須。
テキスト 1	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 2	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 3	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 4	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。

7. 「コード」ページで「次へ」をクリックします。IBM Sterling B2B Integrator は、以前に指示されたコード・ペアをこの送信側および受信側のデフォルト・バージョンとして使用します。今回のバージョンをデフォルトとして指定する場合は、「その他のバージョン」のリストからそのバージョンを選択します。
8. 「次へ」をクリックしてコード・ペアを確認し、「終了」をクリックしてコード・リストを更新します。

9. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 39 部 コード・リストのデフォルト・バージョンの変更

このタスクについて

コード・リストのコード・ペアのデフォルト・バージョンを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 新規バージョンを作成するコード・リストを検索します。
3. 「コード・リスト」の検索結果ページで、特定の送信側および受信側のコード・リストを識別するために使用される名前の横にある「バージョン・マネージャー」をクリックします。
4. 「コード・リスト・バージョン・マネージャー」ページで、デフォルト・コード・ペアとして設定するコード・ペアの横にある「デフォルト」をクリックします。
5. 「保存 (Save)」をクリックします。「スキーマ・ステータスは正常に更新されました。」のメッセージにより、新しいデフォルト・バージョンのコード・ペアが設定されたことを確認できます。
6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 40 部 コード・リストの検索

このタスクについて

コード・リストを検索するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 検索条件を入力します。「コード・リスト」ページの「検索」部分で、以下の 1 つ以上のフィールドに入力して「実行」をクリックします。

コード・リスト検索フィールド	説明
コード・リスト名	コード・リスト名の一部または全体。オプション。
送信側 ID	送信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。
受信側 ID	受信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。

3. 表示されるコード・リストを確認します。「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 41 部 コード・リストの使用可能化

始める前に

マップでコード・リストを使用するには、コード・リストを使用可能にする必要があります。

このタスクについて

コード・リストを使用可能にするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 表示するコード・リストを検索します。
3. コード・リストの横にある「バージョン・マネージャー」をクリックします。
4. 「使用可能」のチェック・ボックスが選択されていることを確認します。
5. 「保存 (Save)」をクリックします。
6. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 42 部 コード・リストのコピー

このタスクについて

コード・リストをコピーするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. コピーするコード・リストを検索します。
3. 「コード・リスト」の検索結果ページで、コピーするコード・リストの横にある「コピー」をクリックします。
4. ネーミング設定を指定します。「ネーミング」ページで、以下のフィールドに入力して「次へ」をクリックします。

ネーミング・フィールド	説明
コード・リスト名	コード・リスト名の一部または全体。オプション。
送信側 ID	送信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。
受信側 ID	受信側の名前 (ID レコードのリストから)。オプション。

5. 「コード」ページで、「新規コードの追加 (add New Code)」をクリックしてコード・リストにコード・ペアを追加するか、または編集するコード・ペアの横にある「編集」をクリックします。
6. 入力コード・データの設定を指定します。「入力コード・データ」ダイアログ・ボックスで、以下のフィールドを入力するか、または編集して「保存」をクリックします。

入力コード・データ・フィールド	説明
送信側コード	受信側のコード値と相互参照する送信側のコード値 (例: Blue)。必須。
受信側コード	送信側のコード値と相互参照する受信側のコード値 (例: Green)。必須。
説明	送信側および受信側のコード値が表す内容の説明。必須。
テキスト 1	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 2	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 3	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。

入力コード・データ・フィールド	説明
テキスト 4	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。

7. 「終了」をクリックしてコード・リストをコピーします。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 43 部 コード・リスト・バージョンの作成

始める前に

コード・リストまたはそのコード・ペアを更新する際は、新しいバージョンのコード・リストまたはコード・ペアを作成します。

このタスクについて

コード・リスト・バージョンを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 新規コード・ペアを作成するコード・リストを検索します。
3. 「コード・リスト」の検索結果ページで、特定の送信側および受信側のコード・リストを識別するために使用される名前の横にある「ソース・マネージャー」をクリックします。
4. 「コード・リスト・ソース・マネージャー」ページで、「新規コード・リスト・バージョンの追加」の横にある「実行」をクリックします。
5. 「ネーミング」ページで、「次へ」をクリックします。
6. 「コード」ページで、「新規コードの追加 (add New Code)」をクリックします。
7. 入力コード・データの設定を指定します。「入力コード・データ」ダイアログ・ボックスで、以下のフィールドに入力して「保存」をクリックします。

入力コード・データ・フィールド	説明
送信側コード	受信側のコード値と相互参照する送信側のコード値 (例: Blue)。必須。
受信側コード	送信側のコード値と相互参照する受信側のコード値 (例: Green)。必須。
説明	送信側および受信側コードが表す内容の説明。必須。
テキスト 1	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 2	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 3	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。
テキスト 4	送信側および受信側コードに関連する説明またはデータ。オプション。

8. 「コード」ページで「次へ」をクリックします。IBM Sterling B2B Integrator は、以前に指示されたコード・リストをこの送信側および受信側のデフォル

ト・バージョンとして使用します。今回のバージョンをデフォルトとして指定する場合は、「その他のバージョン」のリストからそのバージョンを選択します。

9. 「次へ」をクリックして新規コード・ペア・バージョンを確認し、「終了」をクリックしてコード・リストを更新します。
10. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 44 部 コード・リストの削除

このタスクについて

コード・リストまたはコード・ペアを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 削除するコード・ペアを含むコード・リストを検索します。
3. 「コード・リスト」の検索結果ページで、特定のコード・リストのコード・ペアを識別するために使用される名前の横にある「ソース・マネージャー」をクリックします。
4. コード・ペアの横にある「削除」のチェック・ボックスを選択します。
5. 「選択したバージョンの削除」の横にある「実行」をクリックし、「OK」をクリックします。
6. 「リソースのサマリー」ページでコード・ペア情報を確認した後、「次へ」をクリックします。
7. 「確認」ページで「削除」をクリックして、コード・リストからコード・ペアを削除します。
8. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 45 部 コード・リスト・バージョンの削除

このタスクについて

個々のコード・リスト・バージョンまたはコード・リストのすべてのバージョンを削除することができます。個々のコード・リスト・バージョンまたは複数のコード・リスト・バージョンを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「管理」メニューから、「取引パートナー」>「コード・リスト」を選択します。
2. 削除するバージョンを含むコード・リストを検索します。
3. コード・リストの横にある「ソース・マネージャー」をクリックします。
4. 個々のコード・リスト・バージョンを削除するには、以下を実行します。
 - a. バージョンの横にある「削除」のチェック・ボックスを選択します。
 - b. 「選択したバージョンの削除」の横にある「実行」をクリックします。
5. このコード・リストのすべてのバージョンを削除するには、「すべてのバージョンの削除」の横にある「実行」をクリックします。
6. 「削除」をクリックします。

第 46 部 基本顧客インポート・ファイル・システム・アダプターの構成

このタスクについて

BasicCustomerImport_FSA を構成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「サービス (Services)」>「構成」を選択します。
2. 「サービス名」の横に「Basic」を入力して、「実行」をクリックします。
3. 「BasicCustomerImport_FSA」の横にある「編集」をクリックします。
4. 「名前」ページで「次へ」をクリックします。このページの情報を変更しないでください。変更するとアダプターは設計どおりに機能しなくなります。
5. 「コレクション」ページで「次へ」をクリックします。このページの情報を変更しないでください。変更するとアダプターは設計どおりに機能しなくなります。
6. 「ビジネス・プロセス」ページで「次へ」をクリックします。このページの情報を変更しないでください。変更するとアダプターは設計どおりに機能しなくなります。
7. 「スケジュール・タイプ」ページで、要件に応じてパラメーターを構成して「次へ」をクリックします。
8. 「スケジュール設定」ページで、要件に応じてパラメーターを構成して「次へ」をクリックします。表示されるパラメーターは、「スケジュール・タイプ」で行った選択によって異なります。
9. 「スケジュールの除外」ページで、要件に応じてパラメーターを構成して「次へ」をクリックします。表示されるパラメーターは、「スケジュール・タイプ」で行った選択によって異なります。
10. 「抽出」ページで「次へ」をクリックします。このページのフィールドは構成不要です。括弧で囲まれたフィールド名は、グラフィカル・プロセス・モデラーの対応するフィールド名を示しています。この情報は参考用としてのみ提供されます。
11. 「確認」ページで、要件に応じてパラメーターを構成して「終了」をクリックします。
12. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

第 47 部 エンベロープまたはコントロール番号、あるいはその両方を含むファイルとしての取引パートナー・データのインポート

このタスクについて

エンベロープまたはコントロール番号、あるいはその両方を含むファイルをインポートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「展開」メニューから、「リソース・マネージャー」>「インポート/エクスポート」を選択します。
2. 「インポート/エクスポート」ページで、「リソースのインポート」の横にある「実行」をクリックします。
3. エンベロープまたはコントロール番号を含むインポート・ファイルの名前を入力するか、または「参照」を使用してファイルを見つけて「オープン」をクリックして選択し、「次へ」をクリックします。インポート・ファイルにエラーが含まれる場合、ファイルを選択して再度「次へ」をクリックし、インポートを続行するか、または「キャンセル」をクリックしてインポート・プロセスを停止できます。
4. エクスポートしたファイルがリソース・タグを使用していた場合は、新規リソース・タグの名前と説明を入力して「次へ」をクリックします。
5. IBM Sterling B2B Integrator 内に既に存在する可能性があるオブジェクトをインポートからのオブジェクトで更新するかどうかを指定して (デフォルトは「はい」)、「次へ」をクリックします。
6. 「TP エンベロープ」画面で、「既存のコントロール番号の保持」をするかどうかを指定します (デフォルトは「いいえ」です。これはインポート・ファイル内のコントロール番号をインポートすることを示します)。
7. インポートするリソースをリソース・タイプごとにリストから選択して「インポート対象」リストに移動し、必要なリソースをすべて選択したら「保存」をクリックします。インポートするリソース・タイプを複数選択した場合は、リソース・タイプごとにこのステップを繰り返す必要があります。

注: 一部のリソースは、インポートを完了する前にパスフレーズ (エクスポート時に作成) の入力が必要な場合があります。

8. コントロール番号を含むファイルをインポートしている場合、「TP コントロール番号」画面が表示されます。適切なオプションを選択して「次へ」をクリックします。

注: 「TP エンベロープ」画面で「既存のコントロール番号の保持」について選択したオプションも同様にコントロール番号に使用されます。

9. インポートしたファイルで IBM Sterling B2B Integrator を更新するには、「終了」をクリックします。インポートしているライブラリーの数およびサイズによっては、このプロセスは数分かかる場合があります。

10. 「システムの更新は正常に完了しました」のメッセージが表示されたら、「**インポート・レポートの表示**」をクリックしてインポート・レポートを確認します。インポート中にエラーが発生した場合は、「**インポートに失敗したデータ**」の横にある「**ダウンロード**」をクリックして、インポートされなかったオブジェクトの名前を含む XML ファイルを表示します。このオプションは、インポート完了時にエラーがある場合にのみ表示されます。
11. インポート前の状態のデータのバックアップを作成するには、「**インポート前の SI 内のデータ (Data in SI before Import)**」の横にある「**ダウンロード**」をクリックします。
12. 「**別名保存 (Save As)**」ダイアログ・ボックスで、デフォルトのファイル名 (backup.xml) をこのバックアップに固有の意味を持つ名前に変更してから「**保存**」をクリックします。
13. 「**戻る**」をクリックして、処理を続行します。

第 48 部 基本インポート・ユーティリティによる取引パートナー・データのインポート

このタスクについて

ドキュメント・エンベロープまたはコントロール番号 (あるいはその両方) を含むファイルをコマンド・ラインからインポートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. `install_dir/tp_import` ディレクトリーに移動します。
2. 以下のいずれかのコマンドを実行します。 `./import.sh -input [入力ファイル名]` (UNIX)

`import.cmd -input [入力ファイル名]` (Windows)

注: 入力ファイル名は、インポートする XML ファイルの名前です。これはインポート・ユーティリティで使用する必須パラメーターです。

`./import.sh -batch [入力ファイル名]` (UNIX)

`import.cmd -batch [入力ファイル名]` (Windows)

注: バッチ・インポートを実行している場合、入力ファイル名は、ファイル名内の各行を個別のインポート (XML ファイル) として実行することを示します。これはインポート・ユーティリティで使用する必須パラメーターです。

使用可能なすべてのパラメーターを以下の表にリストします。

オプション	説明
<code>-backup [ファイル名]</code>	更新されたレコードのバックアップが保管されるファイルの名前。オプション (指定しない場合、バックアップ・レコードは保存されません)。
<code>-batch [入力ファイル名]</code>	インポートするファイルの名前を指定します。必須。例: <code>import.sh -batch testEnvelope</code> 。このパラメーターは <code>-input</code> パラメーターと互いに排他的です (<code>-input</code> パラメーターまたは <code>-batch</code> パラメーターのどちらかを使用してください)。入力ファイル名を指定しない場合、エラーが生成されます。
<code>-errors [ファイル名]</code>	IBM Sterling B2B Integrator が処理できなかったレコードが保管されるファイルの名前。オプション (指定しない場合、エラー・レコードは保存されません)。
<code>-h -?</code>	ヘルプ画面を表示します。

オプション	説明
-input [入力ファイル名]	インポートする XML ファイルの名前を指定します。必須。例: <code>import.sh -input testEnvelope</code> 。このパラメーターは <code>-batch</code> パラメーターと互いに排他的です (<code>-input</code> パラメーターまたは <code>-batch</code> パラメーターのどちらかを使用してください)。入力ファイル名を指定しない場合、エラーが生成されます。
-KeepExistingControlNumbers	既存のコントロール番号を保持するかどうかを示します。このパラメーターを使用する場合、既存のエンベロープおよびコントロール番号に対してインポート・ファイル内のコントロール番号値をインポートしないことを指定します。インポートされているバージョンのエンベロープまたはコントロール番号がシステム内に既に存在する場合、インポート・プロセスは、インポート・ファイル内に指定された値を、そのエンベロープまたはコントロール番号の既存のコントロール番号値で上書きします。このパラメーターを指定しない場合、インポート・ファイル内のコントロール番号がインポートされます。
-NumberOfThreads [スレッド数]	インポートの実行に並行で使用されるスレッドの数を特定します (デフォルトは 1)。
-passphrase [パスフレーズ]	IBM Sterling B2B Integrator にエンティティをインポートするために使用されるパスワード。オプション。 注: これは、エクスポート時に使用されたパスフレーズです。
-pre32passphrase [パスフレーズ]	一部の暗号化されたリソースを IBM Sterling B2B Integrator 内にインポートするために使用されるパスワード (バージョン 3.2 より前の IBM Sterling B2B Integrator からファイルをエクスポートした場合)。オプション。 注: これは、ファイルをエクスポートしたバージョン 3.2 より前の IBM Sterling B2B Integrator バージョンのシステム・パスフレーズです。 例: <code>import.sh -input [入力ファイル名] -pre32passphrase [エクスポートを行ったシステムからのシステム・パスフレーズ] -passphrase [エクスポート時にユーザーが入力したパスフレーズ]</code>
-privatecerts	秘密鍵証明書が検出された場合にインポートすることを示します。オプション。
-report [ファイル名]	レポート・ファイルへのパスを指定します。デフォルトは、 <code>import.rpt</code> または <code>batchimport.rpt</code> です。オプション。

オプション	説明
-resourcetag [リソース・タグ]	インポートされるリソースのリソース・タグを指定します。 入力ファイルに含まれるリソース・タグを適用するには、USETAGININPUTFILE を指定します。オプション。
-update	システムが既存の取引パートナー・プロフィールを更新することを示します。オプション(指定しない場合、既存のレコードは変更されません)。
-x	終了コードを返さないように指定します。オプション。デフォルトではユーティリティーは終了コードを返します。

第 49 部 CSV ファイルとしての取引パートナー・データのインポート

始める前に

上書きが生じるパートナー情報をインポートする必要がある場合は、インポートする前に以下のステップを実行してください。

1. CSV ファイルをエクスポートします。
2. `basicimport.sh` または `basicimport.cmd` を `-import` パラメーターなしで実行し、XML ファイルを作成します。
3. リソース・マネージャーを介して XML ファイルを IBM Sterling B2B Integrator にインポートします。リソース・マネージャーでは、IBM Sterling B2B Integrator 内に既に存在するオブジェクトを上書きするかどうかを指定するオプションを使用できます。

このタスクについて

コマンド・ラインから CSV ファイルをインポートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. `install_dir/tp_import` ディレクトリーに移動します。
2. 以下のいずれかのコマンドを実行します。 `./basicimport.sh -import [</パスおよび入力 CSV ファイル名>]` (UNIX)

`basicimport.cmd -import [</パスおよび入力 CSV ファイル名>]` (Windows)

注: 基本インポート・ユーティリティーを `-import` パラメーター付きで実行すると、ユーティリティーは既存のファイルを更新します (例えば、現在変換およびインポートしているファイルと同じ名前の CSV ファイルを以前にインポートしている場合)。 `-import` パラメーターを使用しない場合、ユーティリティーは CSV ファイルを XML に変換します。リソース・マネージャーのインポート・インターフェースを使用して、この XML ファイルを IBM Sterling B2B Integrator にインポートできます。リソース・マネージャーを使用すると、既存の項目を更新しないように指定することができます。リソース・マネージャーの使用についての詳細は、「リソースのインポート (*Importing Resources*)」を参照してください。

使用可能なパラメーターを以下の表にリストします。

オプション	説明
-import [</パスおよび入力 CSV ファイル名 >]	インポートする CSV ファイルの名前を指定します。必須。例: basicimport.sh -import c:\import\CSVtest。-import パラメーターを使用しない場合、ユーティリティーは CSV ファイルを XML に変換します。リソース・マネージャーのインポート・インターフェースを使用して、この XML ファイルを IBM Sterling B2B Integrator にインポートできます。

第 50 部 コマンド・ラインの使用による取引パートナー・データの のエクスポート

このタスクについて

コマンド・ラインからファイルをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

手順

1. `install_dir/tp_import` ディレクトリーに移動します。
2. 以下のいずれかのコマンドを実行します。 `./export.sh -input [入力ファイル名]` (UNIX)

`export.cmd -input [入力ファイル名]` (Windows)

入力ファイル名は、エクスポートする XML ファイルの名前です。これは必須パラメーターです。

使用可能なすべてのパラメーターを以下の表にリストします。

オプション	説明
<code>-input [ファイル名]</code>	エクスポートされるオブジェクトを含むファイルの名前。必須。エクスポートされるリソースを説明するプロパティー・ファイルは、以下の形式を持つ必要があります。 RESOURCE_TYPE[1]=ALL または RESOURCE_TYPE[1]=ResourceNameA RESOURCE_TYPE[2]=ResourceNameB RESOURCE_TYPE[3]=ResourceNameC など。 RESOURCE_TYPE は、 tp_import_export.properties で定義されたリソースの名前です。リソースがサブタイプを持つ場合は、特定のサブタイプ名を使用する必要があります。以下は、すべての EDI エンベロープとマップをシステムからエクスポートするプロパティー・ファイルの例です。 DOCUMENT_ENVELOPES[1]=ALL MAPS[1]=ALL
<code>-tag [タグ名]</code>	エクスポート・ファイルに関連付けるリソース・タグ名。これはインポート時に作成されるデフォルト・タグになります。オプション。
<code>-output [ファイル名]</code>	エクスポート・データを含むファイルの名前 (ファイル拡張子として .xml を使用します)。オプション。
<code>-report [ファイル名]</code>	エクスポート時にエラーがあった場合にレポートを含むファイルの名前。オプション。

オプション	説明
-doCerts [ファイル名]	トランスポートおよび証明書をエクスポートするために使用されるファイルの名前。オプション。
-passphrase [パスフレーズ]	トランスポートおよび証明書をエクスポートするために使用されるパスワード。オプション。 注: これは、エクスポート時に使用されたパスフレーズです。
-allversions	システムからすべてのバージョンをエクスポートするために使用します。オプション。

第 51 部 インポート・サービス GPM またはワークフロー・コンテキスト

インポート・サービスは、リソース・マネージャーの「リソースのインポート」オプションと同じ機能を実行します。インポート・サービスを使用すると、使用可能なすべてのリソースがインポートされ、インポートされたバージョンはすべてデフォルトとして設定されます (適用できる場合)。

GPM を介してインポート・サービスを構成する場合、新規パラメーターの「**既存のコントロール番号の保持**」を使用できます。このパラメーターのデフォルトは「**いいえ**」です。これはインポート・ファイルのコントロール番号をインポートすることを指定します。

「**既存のコントロール番号の保持**」のパラメーターを「**はい**」に変更すると、既存のエンベロープおよびコントロール番号に関してインポート・ファイル内のコントロール番号値をインポートしないことを指定します。インポートされているバージョンのエンベロープまたはコントロール番号がシステム内に既に存在する場合、インポート・プロセスは、インポート・ファイル内に指定された値を、そのエンベロープまたはコントロール番号の既存のコントロール番号値で上書きします。

注: GPM または BPML を介して既存のコントロール番号を保持するかどうかを指定することはできませんが、IBM Sterling B2B Integrator のユーザー・インターフェースを介してこのパラメーターを変更することはできません。

インポート・サービスの「**既存のコントロール番号の保持**」のパラメーター値を「**はい**」に変更する代わりに、生の BPML ワークフロー・コンテキストに以下を追加することができます (ワークフロー・コンテキスト (WFC) は各サービスの実行後のビジネス・プロセス状態を表します)。

```
<process name="ImportServiceWithKeepExistingControlNumbers">
  <sequence>
    <operation>
      <participant name="ImportService"/>
      <output message="Xout">
        <assign to="KeepExistingControlNumbers">True</assign>
        <assign to="." from="*"></assign>
      </output>
      <input message="Xin">
        <assign to="." from="*"></assign>
      </input>
    </operation>
  </sequence>
</process>
```

第 52 部 基本インポート・ユーティリティー・プロセスの使用による取引パートナーのインポート

このタスクについて

基本インポート・ユーティリティーは以下のプロセス・フローを使用します。

手順

1. CSV ファイルを `install_dir/tp_import/basic_customer_import_collect` ディレクトリに配置します。
2. `BasicCustomerImport_FSA` ファイル・システム・アダプターは、スケジュールに基づいてこのディレクトリをスキャンし、CSV ファイルをピックアップします。
3. `BasicCustomerImport_FSA` ファイル・システム・アダプターは、定義済みビジネス・プロセス (`BasicCustomerImport.bp`) を開始します。
4. 基本顧客インポート・ビジネス・プロセスは、インポート変換マップ (`BasicCustomerImport.txo`) を実行して、インポート・サービスを開始します。
5. インポート・サービスは、変換された XML ファイルを IBM Sterling B2B Integrator にインポートします。

タスクの結果

基本インポート・ユーティリティーを実行している際に例外が発生すると IBM Sterling B2B Integrator はこの情報を `install_dir/tp_import` ディレクトリの基本インポート・レポート (`BasicImportReport.rpt`、XML フォーマット) に含めます。これは、基本インポート・ユーティリティーを実行すると生成されます。

第 53 部 CSV ファイル・レイアウト

ご使用の CSV ファイルを BasicCustomerImport マップのファイル・レイアウトに合わせる必要があります。

注: あるいはマップ・エディターを使用して、必要に応じて BasicCustomerImport マップを変更し、ご使用のファイル・レイアウトに合わせるすることができます (マップ・コンポーネントの追加や削除など)。その後、マップ (同じ名前を使用して保存するか、または基本顧客インポート・ビジネス・プロセスが呼び出す変換マップの名前を変更する) をコンパイルして、IBM Sterling B2B Integrator にチェックインする必要があります。

ファイル・レイアウトは以下のとおりです。

```
Tag,Company_Name,Reference_URL,DUNS_Number,Address_1,Address_2,City,State,Zip_Code,
TimeZone,Country,Email_address,Phone_number
```

注: 上記のフィールドに適切な値は、IBM Sterling B2B Integrator の取引パートナー・インターフェースを使用してこれらのフィールドに情報を入力する場合と同じです。

このフォーマットのデータ例は、以下のとおりです。

```
A,RomansFloorsAndMore,www.romansfloors.com,01234567899,13
Measle Lane,2nd Floor,Powell,OH,43065,-05,US,roman@romansfloors.com,614-555-1212
```

第 54 部 終了コード

これらのインポート・ユーティリティーは以下の終了コードを返します。

終了コード	説明
0	インポートは正常なステータスで完了しました。
1	インポートはエラー・ステータスで完了しました。
99	インポート・ユーティリティーは、ステータスを待つ間にタイムアウトになりました。

第 55 部 HTTP プロファイルのテスト

管理コンソールの「取引パートナー・プロファイル」画面に進み、検証したいプロファイルの横にある「すぐにテスト」を選択することによって、HTTP プロファイルをテストできます。「すぐにテスト (TestNow)」のオプションにより、通信プロトコルとして HTTP を使用する新規または更新された取引パートナー・プロファイルが正常に機能することを検証できます。「すぐにテスト (TestNow)」についての追加情報は、「AS2 および HTTP の「すぐにテスト (TestNow)」機能の使用 (Using the AS2 and HTTP TestNow Feature)」を参照してください。

第 56 部 付録

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

当該のサンプル・プログラムの複製物のそれぞれ、またはそのあらゆる部分、あるいはすべての派生的創作物にも、次のように著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2012. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべてのJava 関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO、LTO (ロゴ)、Ultrium および Ultrium (ロゴ) は、米国およびその他の国における HP、IBM、および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、Connect:Direct[®]、Connect:Enterprise[™]、Gentran[®]、Gentran[®]:Basic[®]、Gentran:Control[®]、Gentran:Director[®]、Gentran:Plus[®]、Gentran:Realtime[®]、Gentran:Server[®]、Gentran:Viewpoint[®]、Sterling Commerce[™]、Sterling Information Broker[®]、および Sterling Integrator[®] は、Sterling Commerce[™]、Inc.、IBM Company の商標です。



プログラム番号:

Printed in Japan